

幼児の教育

第四十九卷

第三號



三月號

日本幼稚園協會

新 學 期 用 品

自由画帳

定價 二〇圓

送料 6圓、40冊まで 55圓

おさいく帳

定價 二三圓

送料 6圓、50冊まで 55圓

ぬりえ

大判定價 三〇圓

送料 6圓、40冊まで 55圓

ぬりえ(初級)

定價 二五圓

送料 6圓、50冊まで 55圓

ぬりえ(上級)

定價 二五圓

日本幼稚園協會編

えとぬりえ

定價 40圓

送料 6圓、40冊まで 55圓

御道具箱

定價 50圓

送料 5箱まで 35圓

紙

(文部省配給品)

5寸色紙 定價 二圓二〇錢
7寸色紙 定價 二圓二〇錢
送料 二〇組まで 三五圓

紙

4寸色紙組 定價 二〇圓
送料 50組まで 35圓

紙

5寸色紙組 定價 三〇圓
送料 50組まで 35圓

床上積木

大	基尺 8 cm,	容積 32 cm^3	定價 1800 圓	〒 350 圓
中	基尺 6 cm,	容積 25 cm^3	定價 1500 圓	〒 250 圓
小	基尺 3 cm,	容積 12 cm^3	定價 450 圓	〒 35 圓

一箱の積木數約 90 箇，形は，基本的の形を網羅して居ります。

砂場用具

砂 型 (4 種入り 100 圓，〒 35 圓)
 シヤベル (20圓 〒30ケまで35圓)
 パケツ (60圓 〒8ケまで35圓)
 ふ る い (60圓 〒15ケまで35圓)
 トンネル (70圓 〒3ケ/35圓) 汽 車 (80圓〒10ケまで35圓)
 自 動 車 (50圓 〒10ケ/35圓) 客 車 (80圓〒8ケまで35圓)

紙 芝 居

定價 250 圓，袋入り，〒 35 圓
 第1集 みみちやんとおおかみ
 第2集 どの子がいい子
 第3集 お母さんはどこえ
 第4集 親 指 姫

運動遊具

(圖・解説入りカタログ進呈)

ジャングルジム，滑り臺，ブランコ，置きブランコ，波動回轉塔，共同ジャングル，大こ梯子，メリーゴーラウンド，廻てん椅子，等です。

發 行 所

千代田區神田
神保町 2 の 4

フレーベル館保育用品株式会社

振替口座
東京 38171

第四十九卷 幼 兒 の 教 育 第 三 號

目 次

先生方の休養	倉	三	(2)
性 格 形 成 論	波	根	惣
戸外保育と日光	平	井	信
年中行事と保育	内	山	憲
保育における生活ばなし	上	澤	謙
子 供 讃 歌(六)	倉	橋	惣
東京都保育通合會のカリキュラム立案に當つて	松	石	治
(講話) 幼児の心理的發展(九)	山	下	俊
記 録	山	下	俊
CIEヤイデー女史都内幼稚園を觀察	山	下	俊
官廳公示連絡事項	山	下	俊
兒童福祉法による措置等のため支出する費用の限度(厚生省)	山	下	俊
國立幼稚園教員の採用について(文部省)	山	下	俊
會 々	山	下	俊



先生方の休養

倉 橋 惣 三

先生は疲れる。學問を教授する教授達も研究に頭が忙がい、小學校、幼稚園の如きたまなき教育活動にあたる先生方、わけても、小休憩のいとまもない幼稚園の先生方に於ては、その疲勞が容易でない。子ども達が歸つたのち、くた／＼になつたからだ、ぼうとするようなあたまを、椅子になげかける日も稀れでない。しかも、先生の疲勞ほどよき保育活動を妨げるものはない。しらず／＼不精になり、ゆきと／＼かないことを免れない、われともしらず心のこまやかさを失つて、すさむことば、けわしい顔つきにもなる。常に教育の機會をみのがしてならず、いつもやさしく子どもにふれなければならぬ先生方にとつて、これほど恐るべき敵はないといえよう。近來の教師論に於て、『研修』といふことが大いに重んぜられる。誠にそうである。然し、あわせて、休養といふことの必要を説くを忘れ得ない。多くの勤勉なる若き人々と永く仕事を共にしたわれ／＼にとつて殊にそれを痛感する。私はあの人、この人が、もつと働らいてくれたらばよからうと思ふよりは、あの人、この人に、休養の機會をあたえ

ることのすくなかつたことを、思いかぞえずにいられない。休養に二種ある。ふだんの休養、特別の休養とでもいうものである。ふだんの休養はたままない仕事のあいま／＼に、仕事を中断することのない休養で、いわば一寸したいきぬき一寸した氣の轉換といった風のことである。これはもちろんなまけ、怠り、するけといつた風のことではない。心の餘裕で心のはりつめを救ふ心理的のものである。あまりむきになりすぎない心のゆとり、そこに咲くユーモアのちいさい花、輕いリズムの羽音といったやうなものがある。殊に幼稚園の先生方には、そうした心憩いのちいさい機會が、そこ／＼にある筈である。疲れが餘りはげしくなつてしまつた心の硬化狀態の先生でないかぎり、それはむしろ常のことといえるかもしれない。たゞし心のゆとり（？）と、ひまと、さらくさが多くて、その厚かに、何も持ちあわせていないといふのでは別のお話である。

特別の休養というのは、多少とも仕事からはなれる時間をもつて、休養の目的で休養することである。一週間のうち日

曜日はその一例であるが、これがまた、その中で忙しい先生方、家庭の用がたまつてゐる先生方にとつては、しばしば休養の時どころではない。その中でも、なか／＼休養させてくれないし、自分でも休養か急用かと思ひながら、日がくれてしまつたりする。つまり休養には休養の意志計畫實行がなくでは出来ないのである。休養出来たら休養しよう位のことでは、いつでも、無休養にあぶ／＼とおひまくられる。それには疲れたから休養するといつた、しようちことなしの意味ばかりでなく自分の仕事を一ぱいに仕遂げるために適當に休養しなくてはならぬという、積極的な態度でなければならぬ。例えば毎晩のことながら、無駄な夜ふかしに疲れて、うた／＼疲に快復力の少ない假睡をするのと、しつかりした、明日の活動計畫のために、充分ゆたかなねむりをとるようになる熟睡とのちがいの如きである。

三月の終りから四月のはじめにかけて、いそがしい幼稚園の先生にとつて、私のいわゆる、特別の休養の少しながらも機會がある。夏にも、冬にも、その機會があるけれども、暑かつたり寒かつたり、のび／＼と休養できない點もある。春風がほか／＼と吹く、花がのび／＼と咲く、鳥がこゝちよげにさえずる。天地休養の時といふも、亦可也である。但し燭をとつて春の夜を更すのや、春眠曉を覺えない癡坊をすゝめるのではないが――それどころか、春の夜には、春の夜らしい静けさがなくては先生方の高貴なる心を休めるものであるまいし、春の朝には紫におふ春のあけぼのがなくては先生方

の清雅なる心を養ふものはあるまいが、せめてゆつくりおやすみなさい。疲れを知らぬ子供らの相手となるわれ／＼、悲しいかな、疲れをしる、深き用意なくてはならぬのである。

それにしても、特別の休養に就ては、何等かの規定のもとでなくては、勝手には出来ない。このために、學校の規則、また教職公務員特例等に於て、これが考えられる必要もある。こまかく具體的に、一齊的に、日や時間を限つて、規定するといふのも出来ないことであるが、たとえば、新法令が教員の研修について強調しておるが半分のことは必要であるまいか。それに基づいて學校長も、すゝんでその便をはかり、教員もこれを合法的に實行し得るようになりたい。こつそりでない朗な休養のために。但し休養も本務のためである休養を要求し得る權利とでもいふべきものは、本務遂行の條件のもとにのみあることである。よく働き、よく遊ぶという言葉はわが國にも昔からある。我々は、外國の教員諸君がよくつとめ、よくみづからレクリエーションする實狀をみて敬服した。と同時にそのレクリエーションの機會と便宜のゆたかにを、なかつてを、ことをみて、羨望した。戦敗國の教育者として、こんなことをいう時期ではないとならば止む。しかしまた、疲れのみ多きこの生活現狀のなかで、教育者を正しく働かすためにはむしろ却て、今日こそ、このことを考える必要の多いことをも思う。とにかく、空も地も、レクリエーションこの機會が、先生方のために奪われ、妨げられないように。殊にみづから粗末にされないように。



性格形成論

(一)

富山大學教授

波根治郎

一

一方では惡戯ばかりして嫌はれる子がいるかと思えば、他方ではいつもにこにこして友達を助けてやつたり、喧嘩の仲裁までするような良い子もいる。人間というものはどうしてかう色々な性格が生れて來るのであろうか。

人間の性格というものは早くて一歳半、遅くても三歳半でその輪廓が現はれて來ると言はれる。幼兒は親以外の大人を餘り知らないから親を理想とする。男兒は父親を、女兒は母親を理想とし易い。何が善であり、何が惡であるかは親からは認されるか、否認されるかによつてきまる。「うそをつく」と何故悪いですか」と問うと「お母さんから止められているから」と言つた答をする。この邊りから道德的意識が芽生えて來るので親の幼兒に對する言動を餘程注意しなければならぬ。

幼稚園に入ると保育の先生や友達と言動が影響する。年齢

と共に親や先生の指示や禁止の理由を知りたがる故、納得させつゝ指導することが大切である。

惡戯というのは幼兒のもつ基本的要求を充足するのに人々から承認され、肯定される仕方を知らない時に生じる行動であるといふことを知らねばならないと思う。何でもないことに疳癪を立てるといふ惡癖も、それでは先生や友達から受けいれられない、認められないといふことを、自然と體驗の中にわからせてゆきたいと思う。

一一

人間の性格形成に影響する因子には色々なものがある。先づ第一に知能と性格とは如何なる關係があるだらうか。

知能の高い子供はどうしても知能の低い子供よりも何が善であり、何が惡であるかについてよく知つてゐるし、又それによつて行動し易い。少くとも迷ふことが少い。この事は犯罪少年中、精神薄弱兒が正常兒の四倍もいることから明らか

かである。随つて私共は知能の高低を知らずに唯子供の行動のみを見て、簡単に良い子、悪い子ときめてしまつたり、就中好悪の情を示したりすることは警戒しなければならぬと思う。

第二に健康と性格との關係は如何。元氣で活動的な幼児ははつきりした進取的態度をとるに對し、病弱で元氣のない子供は兎角ちぢこまつて萬事控え目になり、又情緒不安定でいらいらし易い。かゝる行動・態度が習慣化されるところに性格が出来てゆく。身體の大きく腕力の強い子供は過度に自信をもつて餓鬼大將になり易い。弱くて小さい子供は友達との活潑に遊ぶ姿を羨望・嫉妬の眼で眺めることなきやう配慮が必要である。

事實社會的不適應児には不健康な者が多い。(尤もその不健康の原因が貧困であつて、貧困と不健康と知能低劣等が重つてゐることが多い。)不健康児は情緒が不安定になり易く、又劣等感情をもつことが多い。尋常な手段では健康児に對抗出来ないで狡猾になる機會をもつわけである。ヒールイは百人の不適應児と適應児を比較して次のような表を出している。(註一)

知能と同様健康も素質に因る面が多いが、最近の學說では知能でさえ先天的因子と後天的因子とは五分五分と言われている。健康に於ては尙更のこと、大人の配慮によつて不健康を防禦し、ひいては強く正しい性格形成の一契機たらしめたと思ふ。

事	例	不適應児	適應児
妊娠中母の精神的苦惱		一〇	三
妊娠中母の疾病		一三	六
乳兒脚氣むつかしくすぐ泣く		一四	五
用便の躰けの困難		三一	一三
幼兒期體重の輕過ぎ		一二	五
幼兒期大病或は多病		二八	八
幼兒期頭部に負傷		五	〇

三

第三に家庭と性格との關係であるが、幼兒は親の態度をすべて學びとらうとする。併し反面幼兒でも或る食物を無理に食へるように強いられるとその食物が嫌いになることがあるように、子供の躰けの點に於ても親の強制は逆になり反抗とを招來することがあるので注意しなければならぬ。

今更申すまでもなく貧困な家庭、不道德な家庭、怠惰な家庭、破れた家庭(親の不倫)、住居が狭過ぎて子供に悪影響のある家庭、親の不在勝の家庭、實親のいない家庭等から好ましくない性格の子供が生れてくる。

子供の道德的意識と接觸する周りの人々のそれとの相關係數を調べてみると親が最高で、次が友達——先生と言う順序

になつてゐるのをみても私共は「子は親の鏡」という言葉を今更乍らじみじみと味う次第である。

次に教師・友人と性格形成の關係であるが、同じ教室で學ぶ子供同志の道德的意識の相關係數が〇・六六に對し、異なる教室の子供のそれは〇・二三という數字を見れば教師の影響の少くないことを痛感させられる。(註二)

更に子供は遊び仲間の人々から認められたいという基本的要求が強いので、その屬している遊び集團の性格が決定的に子供の性格を規定してくる。またかゝる集團心理を理解して指導に周到的配慮を拂つておれば、計畫的に指導プログラムを實施してゆけば必ず短期間に効果は上つてくるものである。

次に子供は印刷されたもの、例えば繪本・漫畫等から強い感銘を受けるので常に俗惡なものを避ける注意が必要である。

最後に子供の住む部落、地域社會の問題である。健全な遊び場を増すこと、住宅を明るく住みよくすることによつて不良性格を一人でも減少することが出来る。或る町の貧民窟を一時全部立ちのいて貰つて、その跡に小ざつぱりしたアパートを建て、前に住んでいた人々をそこに戻し住ませると清潔・健康状態・社會性・時間觀念・子供の躰け等色々な點で目立つて良くなつたとその町の校長が監督官廳に報告している實例がある。

以上六項目に亘つて幼児の性格形成に影響する因子を概観して來たが次に少し實例を擧げてみたいと思ふ。

四

子供の反抗的態度は人に愛されたいとか、受け容れられたいとか、認められたいとか、欲しいものを食べたいとか言うような基本的要求が阻止されるところに原因のあることが多い。承認されると快感を感じ敵意的態度を示す。非社交的な子供がそれと不快を感じ敵意的態度を示す。非社交的な子供がそれの故に他人から嫌はれる(承認されない)とか、益々、非社交的となり、愛されると濃厚乃至重厚な性格となる。

Aは三歳頃家庭で非常に亂暴者であつたが、幼稚園に入つて六歳頃には温順な良い子になつた。この子は承認を求める要求が強く、幼時表現が粗野で拙く、家族から笑はれ疳癪持ちになつたが、幼稚園に於て優れた保姆の指導により可成りよく歌つたり、お話したりすることが出来るようになり、家庭に於ても家族の人々よりもてはやされ(承認される)ことによつて要求が充足され、情緒の安定を得、劣等感情より救はれ適應狀態に入つたわけである。

BとCとは双生児の六歳児である。Bは幼児ながら放浪癖あり、盗みはする。或る時は怒つて我が家に放火した(未遂に終つたが)ことすらあり、親は我が子を「不従順、疳癪持ち、生意氣」とこぼしているに對し、Cは従順で落着いた子供である。同じ家庭に生れ育つ双生児でありながらどうしてこんなに違つた性格になつたのであらうか。事例研究をしてみるとBは難産で醫師の手によつて機械で出した時に若干頭

部に傷害を受けた。(内部の爲家庭では氣が付かなかつた)。

乳兒期はよく泣く子であつた。知能指數は八十二である。衝動的で落着かず、漫聲に書いてある惡戯を實演して親を困らせ、或は驚かす。偶々父親が商業に失敗し、氣持がいら立っていた爲、Bを嫌つて「Bと一緒に居るのは蛇と一緒にいるようだ」等と教養のない言葉を出し、時には打つこともあつた。

Cは先に生れた子で安産であり、知能指數は九十五、常に靜かで満足さうに生活を樂しんでいる。

結局Bは難産の爲、身體的障害を受けており、その爲に情緒が不安定で落着きなく行動が衝動的である。更に父から嫌はれ時には打たれ、愛情を求める要求・承認を求める要求が絶えず阻止され、而も幼兒にとつて最も害のある恐怖の意識に陥ることある爲、兩々相まつて不良な行動が現はれて來たものである。Cと違つて何か突飛な事を仕出かされば家族や隣人の注意を自分に惹きつけられない。換言すれば承認を求める要求が充足されない。それ故歪曲された方法によつて自分の要求の充足を企圖し(意識的・無意識的に)、漸次人々により是認されない——嫌はれる性格を形成していつたわけである。

かゝる氣の毒な問題の子供Bも愛情と理解深き教師のガイダンスによつて徐々に性格が改善されてゆくのである。何故ならばBは今まで自分を理解してくれる大人を持たなかつたのである。

五

子供に健康を與えよ、愛情と理解のある家庭に抱け、明るく健全な社會に育くめ——そこに子供は自ら適應狀態に入る遊びに我を忘れ、友達と仲良く楽しく遊んで心も身體もすくすくと強く眞直に伸びてゆく。

下手に叱つたり、罰したりすると小火が却つて大火になることがある。喧嘩をする子供も只叱つたり、止めたりするのはなく、子供の主張を一度聞いてやりたい。正しい自然な要求を抑へつけていると無口な退嬰に墮する。

いつも正しい子供、いつも悪いことをする子供という者は減多にいない。そこに教育の樂しみがあり、効果がある。

私共は子供達の不適應の兆候を見付けたならば、その原因を探索したい。原因を除去しつゝ指導方策を科學的に打建てていきたい。ソーンダイクも「人間の道德性は知性よりも、環境の影響を受け易く、それだけ教育の効果が期待し得られる」と言つてゐる。(註三)

私共は子供達の行動なり性格が環境との如何なる力動的關係に於て生れて來たものであるかを先づよく辨え、環境を、就中人的環境を淨化しつゝ子供と共に良き習慣を作つていくことが大切であると思う。

一、強過ぎる要求、多過ぎる要求の轉換を圖り、情緒の不安定・劣等感を除くことによつて心の健康を與えること



戸外保育と日光

愛育研究所員

平井信義

(一)

五月の或る晴れた日、午前十時過ぎでしたか、いつもになく静かな幼稚園をいぶがりながら室に入つてみますと、高い窓のついた壁際で、保母さんからお話を一心にきいている子供の群を見付けました。戸外の明るさに慣れた私の眼には、この群が何とうす暗く見えたこととせう。北歐の貧民窟の子供たちに見る様に子供たちの眼の輝きが鈍り、顔の影が青白くすいて見えます。これはいけない、さう思つて私はそつと保母さんに耳打ちしました。

『この續きはあとにしませうね』と保母さんは俄かに立上りました。『みんなお外に出ませう！』その聲に子供たちはわつと喚聲をあげ、我れ先にと戸外に走り出しました。まぶしうにお日様を仰ぐ子供たちの頬には、再び朱が射し始めました。眼差は輝き出しました。さんさんと降る光の中で追ひつ追はれつ子供たちは走り始めました。清水に投げ込まれため

だか様………

(二)

一と月の、或いは毎週の保育案をたてるときに、お日様のことを思ふ方は幾人あるでせう。粘土、お繪かき、遊戯、リズム教育などのことは一心に計畫される保母さんも、お日様と子供を結びつけて保育案を立てることをお忘れになりはしないでせうか。

お日様を讃える歌、句は古くから澤山あり、私共もその大きさに就いて知つてはいるのですけれど、目先にいろいろの仕事が積まれるとその取扱ひに心を奪はれて、私共を取巻いている大きな力のことをついつい忘れてしまうのです。保育についていろいろなよい案が立てられるでせうが、何よりも先づ、どうしたらお日様の力を最も多く子供たちの上に與へることが出来るかを念頭において頂きたいと思ひます。

(三)

子供たちを裸かにしてみませう。何となく骨の形の悪い子供がいるでせう。左右の胸はそがれた様に凹み（之をハリソン氏溝と云ひます）片腕を上げさせ一本一本の肋骨を見ると明治初期の軍服の様にたてに珠が並んでついております（之を念珠といいます）脊骨は曲り加減で、足はX脚又はO脚という様な……。之らは皆佝僂病の軽いものなのです。

佝僂病と云ふのは骨にカルシウムのつき方が悪いために骨の形が悪くなる病氣ですが、骨にカルシウムのつく爲には、どうしてもビタミンDの働きを受けなければなりません。ビタミンDは主として日光の紫外線をうけて、皮膚の表面のある種の脂肪エルゴステリンが變化して作られるのです、ですから日光がなくては骨の充分な形成は望まれないわけです。骨の形の悪い子供は、これ迄の生活でお日様に當る機會が少なかつたことに原因しています。家屋敷にかこわれ、厚着をして育てられた子供ではないでせうか。一人つ子或いはおばさん子に多くはないでせうか。之を地方的に見ますと、冬に日の目を見ることの少い北陸地方に多く見られます。

(四)

正眞の佝僂病は、背は猫の背よりも著しく丸くなり、前腕や脛の骨が、くの字に曲つて、誠に氣の毒な容姿です。五才になる女の子でしたが、終戦の年に北鮮で生れ、終戦のあの

騒動で家から一年も殆ど外に出ることが出来なかつたために背は低く手足の骨がどれもくの字に曲つて居りました、こうした子供の骨をレントゲンで撮つてみますと骨端も腫れており、その他肝臓や脾臓も大きくなつています。その上肺炎にかゝつて死に易く、智能教育も普通児に比較して非常におそくなります。

かうなつてしまつてからではなかなか手の施し様がありません。どの親だつて愛する子供をこんな容姿に育てようとは夢々思はなかつたのでせうが、お日様の力を忘れて子供を育てた結果であつたのです。今日の健康は過ぎた日のよい保育の賜であり、現在のよい保育は明日の健康への贈物であるわけです。低い背丈、不恰好な足、曲つた背を改良してスマートな日本の青年を作るためには、一瞬でも多く太陽の力にありかたいたいものです。

(五)

ビタミンDが骨の形成になくってはならぬものであること、發育に非常によい結果を與へることは、既に述べた通りであります、忘れてならないのは齒との關係です。

ビタミンDが齒の正常な發育に非常に役立つことは充分認められており、之が缺乏しますとカルシウムなどの利用が妨げられ、珐瑯質がうまく作られないのです。従つて之が長く續くと虫歯發生の端緒を開くことになりませう。

試みに子供たちの口をあけさせて、虫歯の數を數へてこら

んなさい。骨の形が悪かつた子供に多いと云ふ事が云へないでせうか。戸外の遊びが嫌いで、屋内にばかり引籠つていたがる子供に多くはないでせうか。虫歯は勿論甘いものとも關係し、遺傳的な傾向も濃いことは云はれて居りますが……。

(六)

以上はビタミンDを中心にしてのお話でしたが、紫外線の持つてゐる大きな役目にはこの他に細菌を死滅させる力のあつたこととです。お日様の直射に遭ふと、インフルエンザ菌、デングテリ菌、肺炎双球菌などは一〇分から三十分間のうちに死滅してしまふものです。今その表を掲げてみませう。直

光線に對するバイ菌の抵抗力

		散 光		直射日光	
		冬	夏	冬	夏
インフルエンザ菌	二時間	二〇分	三〇分	一〇分	
肺炎双球菌	七日	二時間	二時間	一〇分	
デングテリ菌	七日	五日	三時間	三〇分	
百日咳菌	二一日	一四日	五時間	二〇分	

射日光と散光とではこんなに殺菌力がちがふものと驚かされます。これはほんの一例ですが、戸外でよく遊ぶ子供たちは、知らず知らずのうちにバイ菌から守られてゐることが考へられます。結核菌は乾いてさえいれば直射日光の下で

間もなく死にますが、日蔭におくと廿二時間も生きてゐるものです。

この殺菌作用は、紫外線の中でも二七〇〇Å附近が最も強いと云ふことであります。

紫外線にはこうした作用はありません。然し地上に熱を與へ氣温を支配するもので、私共の健康とは切つても切れぬ關係を持つてゐます。

目に見えない紫外線や赤外線の話が之になりましたが、私共はお日様の光(白日)からも何と大きな恩恵をうけてゐたこととせう。お日様の光なくしては地球上の生活も、太陽系にある他の遊星の營みもなくなつてしまふこととせう。

(七)

お日様の恩恵について幾つか述べてみました。かうしてお話してしまふと却つて情けない位で、科學的にもつと言ひ表すことが出来なかつたものと思案されます。お日様の恩恵をあれこれ分析するには、科學はまだまだ未熟と云ふより他はありません。紫外線とビタミンDとの關係についてさえも、少し立入つた考へを持たうとすると、まだ何も研究されていないのです。

理窟は抜いて、お日様の光を沿ひぬものは日蔭の花でありもやしであります。子供たちには一瞬も惜しんで、お日様の下で遊ぶ様に指導させよう。お日様は健康の源であります。健康はこの基礎であります。

(八)

保健上から見たお日様の恩恵を讃えたわけですが、いくらよいものであつても無限に與えることは害があります。虚弱な子供を炎天下に引きずり廻す様なことは考へてみたゞけでもぞつとします。夏休みなどに日歸りで子供を海水浴に連れてゆくなどはこの類です。それが誘因となつて、日本腦炎を起して死ぬ子供が相當あるのは本當に残念なことです。

暑くなり始めてからの戸外保育には、必ず帽子を被らせることゝ、清潔な水を補給することに心懸けねばなりません。子供は帽子をうるさがつて、眼を放していると脱ぎ忘れ、眞赤な顔をして歸つて來たり、頭がいたいと云ひ出したりします。赤外線で日射病を起しかけたわけなのです。すぐに涼しい木蔭で衣類をゆるくしてやりませう。がこんなことになる前に氣を配つて、室内の保育或いは木蔭の保育とを上手に按配して欲しいものです。

子供は汗かきですから、戸外でかけ廻つたあとよく拭つてやらねばなりません。戸外に出す前に出来るだけ薄着にすることが先決です。殊に冬、春先などには一ぱい着込んでゐる子供が多いから、風のない暖い月であれば下着一、二枚にしてもよいでせう。氣温が十八度になれば半裸にしても差支えありませんが、初めて試みる時は三分位からはじめて、次第に時間を延ばしてゆきます。一瞬なりともお日様を利用して欲しいのは、冬の保育の場合、特に北國の子供たちのため

にそれを望みたいのです。」

(九)

戸外で遊ぶのを嫌つて、皆が外に出てゐても折紙をしたり繪をかいたりしている子供があります。その子供が繪が特に上手であつたりすると、外に連れ出すのが子供の才能を折つてしまふ様に感ぜられることもありませうが、美しい花であつても日蔭の花では困ります。將來の才能に期待をかけるのなら、出来るだけ體を作つておいてやりたいと思ひます。お日様になじませる様、こんな子供こそつとめて戸外に出したいものです。

少し長く外にしていると頭痛を訴える子供があります。何故かよく分りませんが、顔を眞赤にしてのぼせています。こうした子供は矢張コントロールしてやる必要があります。

ふだんから弱い子供を戸外で遊ばせるには、その子供たちを一つのグループにして指導することが望ましいことです。なかなか手がなくて保母さんも大變でせうが、しばらくは保母さんに交替に付き添つてもらふことも方法です。さうした子供を早く慣らして他の子供と一緒に保育出来る様になれば保育の成果は更にあがるでせう。

(十)

戸外で精一杯に遊び廻る子供たちは、手も足も、顔も泥と汗とで眞黒になることでせう。室に入る前に(三頁へつゞく)



年中行事と保育

内 山 憲 尙

一 幼児期の思い出

幼ない時の思い出の中に一番印象強く、くつきりと頭に刻みつけられているものゝ一つに年中行事がある。眼を閉ぢて古い昔のことをなつかしみ乍ら故郷の風物を想う時、そこに髣髴として浮んでくるのは年中行事のありさまである。

お祭の太鼓の音

花まつりの花御堂と甘茶の味

青空に泳ぐお節句の鯉

七夕まつりの笹……

次から次へと走馬燈の様にうれしい思い出が湧いて来る。

年中行事は幼な心に焼きつけられた童心の寫眞である。幼児期にこの美しい焼きつけを残して置くことは、その人の一生の記念アルバムを作ることになり、その人の一生に潤いとよるこびとを與えるものである。

二 年中行事の意義

年中行事は成立が複雑であり、形式が多様であるので、その意義も一概に表わすことは困難であるが、簡単に云えば、一年の間に日を決めて行う儀式、祭典其他記念的な催しことである。

一般に年中行事と稱せられるのは古來宮中のもの及び武家のものが次第に民間行事となつたもの、例えば四方拜、元始祭、雛の節句、七夕などの如きものを指すのであるが、又一方諸國の祭禮や祭禮に附随した催物を意味することもある。即ち東京の酉の市、静岡櫻が池の納櫃祭、吉田の火祭、京都の太秦の牛祭、奈良二月堂の水取り、徳島の阿波踊、博多のどんたく、青森の佞武多等これである。

我で國の年中行事はその起原は非常に古く大寶令に「天照大神が、始めて五穀を得て、稻穀を天狹田、長田に植えられ

た」と云うことが古事記及日本書紀にある。これに基いて十一月卯の日を新嘗祭と定められた。(明治六年太陽曆採用と同時に十一月二十三日に決められた)

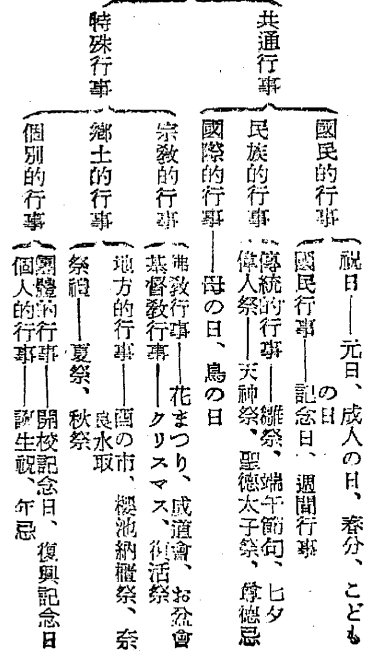
平安朝に入つてからは、支那の文化移入と共に支那の行事及び佛教の渡來と共に佛教的行事が輸入された。即ち醍醐天皇の延喜式、大江匡房の江家次第、藤原朝隆の雲圖抄、藤原師遠の年中行事などに當時の年中行事のあり方を見ることが出来る。

源平二氏が天下をとつて以來は、新たに武家の行事が取り入れられる様になつた。室町時代の武家政治の隆昌と共に朝廷の行事は衰微を見せたが、桃山時代から江戸時代に入り人心が安定し、泰平の世となると共に再び年中行事は盛んになり、朝廷、武家、民間の行事が次第に接近し、融合して行われる様になり、これと共にいろいろな形式の諸國行事も盛大となり、郷土的色彩を多分に取り入れて、その美を競うこととなつた。

明治六年太陽曆の採用と共に祝祭日が決まつた。これが年中行事の基根をなし、それに民族的行事が加えられて、傳統となつて毎年くり返されて來たのであつた。

三年中行事の種類

年中行事をかく解釋すれば、祝日、民族的行事、偉人の記念祭、宗教的なもの、地方郷土的なもの等いろいろな角度もものがあるが、今一應まとめて分類して見れば次の如し。



祝日は元日、成人の日、春分の日、天皇誕生日、憲法記念日、こどもの日、秋分の日、文化の日、勤勞感謝の日の九つである。

國民行事は震災記念日、時の記念日、動物愛護週間、防火週間、交通安全週間、共同募金週間の様な、國民全體が行う行事である。

民族的行事のうち、傳統的行事は、昔から行われている雛まつり、節分、端午の節句、お月見、七夕、七五三の様なもので、偉人祭は天神祭、聖德天子祭、尊德忌等である。

國際的行事は母の日、鳥の日等各國で共通に行う行事。宗教的なものとしては、佛教の花まつり、お盆會、成道會、ねはん會、お會式、お十夜、報恩講の様なもの、基督教のものはクリスマス、復活祭、受難週(三月廿一日から)聖

露降臨祭（五月十六日）等がある。

郷土的行事は各地で非常に多く、さきにあげたものの外、全国的に有名なものは濱松の風揚、太秦の牛祭、桑名石採神事、太宰府の追儺、長崎のペーロン競漕、相馬の野馬追、八

戸のへんぶり、秋田の竿燈等がある。
團體的行事は學校や國や市町村の新しい記念の日等であり、個人的なものは誕生祝、個人の記念日等である。
幼兒向きのものを中心として月別に表示すれば次の如し

年中行事一覽表

月別	祝日	國民行事	民族行事	偉人祭	國行事
一月	元日(一日) 成人の日(十五日)		書初(二日) 數入(十六日)	良寛祭(六日)	新年會
二月			節分(初旬)	天神祭(二十五日)	お遊戯會
三月	春分の日(二十一日)	動物愛護週間(二十一日)	雛祭(三日)	鷹偶祭(七日)	修了式
四月	天皇誕生日(二十九日)	植樹祭(三日)		花まつり(八日)	入園式
五月	憲法記念日(三日) こどもの日(五日)	母の日(第二日曜) 兒童愛護週間(五日)	端午節句	痘祖祭(十四日)	體格検査
六月		時の記念日(十日)		小波祭(六日)	遠足
七月			七夕祭(七日)	魂まつり(お盆十五日)	同窓會
八月					休暇
九月	秋分の日(二十三日)	大震災記念日(一日)	月見(下旬)	香韻忌(八日)	遠足
十月				尊徳忌(二十日)	運動會
十一月	文化の日(三日) 勤勞感謝の日(二十三日)	體育デー(三日) 交通安全デー	七五三祝(十五日)		體格検査 玩具まつり

四 新しい祝日

終戦後、あらゆる面の民主化が叫ばれ、従来の祝祭日にも再検討が加えられなければならぬ様になり、この問題を國會で取り上げ、委員會を設けて審議すること十二回打ち合せ九回、參議院文化委員會との合同打ち合せ會四回に及び、各種文化團體、新聞社に於ても關心を持ち輿論調査等を行つて、昭和二十三年七月二十日法律第百七十八號を以て公布された。

第一條 自由と平和を求めてやまない日本國民は、美しい風習を育てつゝ、よりよき社會、より豊かな生活を築きあげるために、こゝに國民擧つて祝い、感謝し、又記念する日を定め、これを『國民の祝日』と名づける。

第二條 國民の祝日を次のように定める。

元日 一月一日 年のはじめを祝う

成人の日 一月十五日 おとなになつたことを自覺し、みずから生き抜こうとする青年を祝ひはげます

春分の日 春分日 自然をたぐえ、生物をいつくしむ

天皇誕生日 四月二十九日 天皇の誕生日を祝う

憲法記念日 五月三日 日本憲法の施行を記念し、國の成長を期する

こどもの日 五月五日 こどもの人格を重んじこどもの幸福を

はかると共に、母に感謝する

秋分の日 秋分日 祖先をうやまい、なくなつた人々をしるふ

文化の日 十一月三日 自由と平和を愛し、文化をすゝめる

勤勞感謝の日 十一月二十三日 勤勞をたつとび、生産を祝ひ

國民たがいに感謝しあう

第三條 『國民祝日』は休日とする。

新しい祝日については更めて説明を要さないと思うが、まだ一般にはなじみが薄い様である。幼稚園、保育所に於ても出来るだけ各種のふさわしい行事をして、もつと意義あるものとして、制定の趣旨に副うべきである。

五 我が國年中行事の特色

祝日以外の年中行事の中で、幼兒の生活に直接に關連を持つてゐる傳統的行事は我が民族の血の中を流れて傳わつて來たものであるから、國土や國民的感情が多分に織り込まれてゐる。即ちその特色をあげると①子供にながりを持つてゐること②自然物を取り入れてゐること③人間愛が現れてゐることの三つをあげることが出来る。

1 子供にながりを持つてゐること。

年中行事の起源に於ては子供に關係のなかつたものも、次第に子供たちの參加となり、子供たちの行事となつたものが多い。雛まつりが曲水の宴から發し、機を拂う雛流し

から次第に女兒のためのものとなつたが如き、また五月五日の端午の節句が、支那から入つて次第に男兒のための祭りとなつたが如き、又は七夕まつりが、星のロマンチックな傳説から、織物への祈願となり、更に習字の祈願となり徳川末期からは完全に子供のためのものとなつてしまつたが如きこれである。

2 自然物を取り入れていること。

日本人はその食物や自然の環境、氣候などの關係から、自然を愛好する國民である。日常の生活にも自然物を多分に取り入れている。例えば食器や衣服の模様にしても花や草が大半を占めている。

年中行事にも、その時々植物が必ず取り添えられて採用されている。

- 一月(正月)……松、竹、梅、七草
- 二月(節分)……豆、ひいらぎ、鰯
- 三月(雛まつり)……草餅、桃の花、豆
- 四月(花まつり)……花御堂、甘茶
- 五月(端午節句)……菖蒲、鯉、よもぎ、かしわ餅
- 六月(田植)……田植の行事
- 七月(七夕)……笹、お盆の飾りもの
- 九月(月見)……薄、團子
- 十月(えびす講)……菊、えびす講のかざりもの
- 十一月(酉の市)……酉の市のくま手、草市、亥の子餅
- 十二月(餅つき)……餅

3 年中行事の成立が美しい人間愛の發露であるものが多い

人間愛が現われていること。
年中行事の成立が美しい人間愛の發露であるものが多い。傳統的な行事を見ても雛まつりが人形を愛する氣持ちや、女の子を可愛がる意味から、五月の端午は男の子を愛する氣持ちからであり、七五三の子供のお祝の如き、又は魂まつりが母に對する孝養に發しているが如きこれである。

六 年中行事と幼兒教育

幼少時代に受けた生活の思い出は、人間の一生を通じ、魂の底に、そのよるこびをきざみ込むものである。年中行事の教育的價値のうち主なるものをあげれば次の如し。

1 情操教育

傳承的な行事の中には、子供の心に美と潤いを持たせる分子が澤山盛り込まれているものが多い。七夕の笹にしても、雛まつりのお人形にしても、又は祭竹の飾りにしてもすべて美しい繪卷きである。

2 郷土教育

郷土を知り、郷土を愛する氣持ちは、社會を愛し、祖國を愛する基礎ともなるものであるから、幼少時に出来るだけ郷土の催しに親しましめることが必要である。

郷土教育には三つの類型が考えられる。

第一は客觀的主知的郷土教育であつて、郷土の共通の特色を知らしめ、郷土觀念を植えつけ様とするもので、郷土

文化、郷土改善の實をあげることを目的とする。

第二は客觀的情的教育であつて、郷土愛を覺醒せんとする、情操を對照とする意味の郷土への愛着的な教育である。所謂郷土愛の育成に役立つべき教育の在り方である。

第三は主觀的郷土教育であつて、空間的實質的郷土、土地及自然の中に兒童の體驗的領域を構成するものを以つて教育の對象としての郷土の概念を形造らうとするものである。主知主義に反對する點に於て、客觀的情的なものと共通である。

何れにせよ郷土的な氛圍氣を通じて、郷土を知り、愛着を持たしめ、社會愛、隣人愛、祖國愛の育成に役立たしめんとするものである。

3 宗教教育

年中行事の中の半は宗教から發し、又は宗教と結びついたものである。花まつり、お盆や彼岸は佛教的であり、春秋の祭禮や地方的な神事又は禮拜儀式的形式のものは神社の關係のものが多く、クリスマスや復活祭などはキリスト教の行事である。かゝる宗教的行事に参加させることによつて宗教的情操に呼びかけて間接的な宗教を施すこととなるのである。なお節分や大拔に基因する行事は穢を拂い邪惡を除く清淨心の涵養となり、これもまた一つの宗教的教育と見なすことが出来る。

4 國際教育

年中行事の新しい意義の一つとして國際的な教育をあげ

ることが出来る。從來、鎖國主義、封建主義によつて、廣く世界的な眼の開かれていなかった我が國民は、國際的な氣持が不足していたのである。年中行事の國際的なものに參加により、これの教育の一助ともすることが出来る。

三月三日の雛まつり會を、芝の兒童館で催し、園児の遊戲や唱歌や劇などをやつたが、アメリカのジョンソンスクールの子供たち二十五名を招待して、見ていたときお人形を贈つて子供の眞心を現はしたのであつたが、大變によろこんで歸られた。又當園の幼兒たちも國際的な氣持を多少は持ち得た様に見受けられた。

以上幼兒發育の上に年中行事の必要なことを述べたが、實際問題として、年中行事は出来るだけ、幼兒の手で、幼兒中心のものを行つて、保育に變化と潤とを與えることが必要であることを力説する次第である。『雛まつり』から歸つて)

(三九頁より)

四、志願者が採用志願者名簿に記載されて一年を経過しても採用されなかつた場合はその効力は失われ、又改めて志願しなければならぬ。

なお幼稚園關係の志願者名簿は、幼稚園教諭採用志願者名簿と幼稚園講師採用志願者名簿とに分かれ、教諭採用志願者名簿は一級普通免許狀、二級普通免許狀及び假免許狀の各部に分かれて記載されることになっている。

出願に對する詳細は、文部省人事課、地方連絡課又は各國立大學の庶務課に問合せると分る。(以上——文部省初等教育課)

保育に於ける生活ばなし

上 澤 謙 二



まず、このお話を讀んでください。

新子ちゃん、はじめて幼稚園をきました。きょうから、幼稚園へあがるのです。これから、幼稚園のこどもになるのです。

新子ちゃんをつれてきたお母さんは、いそがしいので、先生におたのみしてかえりました。それで新子ちゃんはひとりになりました。

お庭はひろくて、大ぜいのこどもがあそんでいます。知っているお友だちは、ひとりもありません。

それから、おへやえはいりました。おへやには、いろいろなものがありますが、何をしていいか、わかりません。

けれども、新子ちゃんは泣きません、おうちへかえろうなどとしません。

先生がおつしやいました。

「新子ちゃん、えらいわね、何かしますか」

新子ちゃんはいいました。

「わたし、何していいか、わからないの」

そうすると先生はほかのこどもたちにおつしやいました。

「新子ちゃんは、きょうはじめて幼稚園へきたので、何をしたいかわからないのです。だから、だれか、新子ちゃんにすることをおしえてあげてね。そうして、新子ちゃんのお友だちになつてあげてね」

そうすると、新子ちゃんのわきにいた三ちゃんがいきました。

「じやあ、ぼく、おしえてあげよう。そうしてお友だちになるう」

三ちゃんは何をもつてきたでしょう。三ちゃんは積木をも

つてきました。

『これね、積木。これで、おうちでも何でもつくれるよ』

そうすると、新子ちゃんのそばにいたマチ子ちゃんがいきました。

『じゃあ、わたし、おしえてあげよう。そうしてお友だちになろう』

マチ子ちゃんは何をもつてきたでしょう。マチ子ちゃんはお人形をもつてきました

『これね、お人形。これ、だつこしたり、おんぶしたりできるの』

『それから、だれか、新子ちゃんに何かおしえてあげられませんか』

そういつた先生は、半ちゃんをよびました。

『半ちゃん、何か、おしえられる？』

『ええ、おしえられます。そうして、ぼくもお友だちになります』

半ちゃんは何をもつてきたでしょう。半ちゃんは紙とクレオンをもつてきました。

『これね、紙。これね、クレオン。これで、たくさん、畫がかけるよ』

そうすると、チヨ子ちゃんがいきました。

『先生、わたしもおしえられます。そうしてお友だちになります』

チヨ子ちゃんは何をもつてきたでしょう。チヨ子ちゃんは

繪本をもつてきました。

『これ、繪本。これを見ると、いろいろなものがかいてあつて、おもしろいわよ』

そうすると、順ちゃんがいきました。

『じゃあ、ぼくもおしえてあげよう。そうしてお友だちになろう』

順ちゃんは何をもつてきたでしょう。順ちゃんは粘土をもつてきました。

『これね、粘土。これでね、何でも、好きなものをつくれるよ』

そうすると、ミヨ子ちゃんがいきました。

『じゃあ、わたしもおしえてあげよう。そうしてお友だちになろう』

ミヨ子ちゃんは何をもつてきたでしょう。ミヨ子ちゃんは折紙をもつてきました。

『これね、折紙。これで、いろいろなものを折つてこしらえるの』

そうすると、金ちゃんがいきました。

『じゃあ、ぼくもおしえてあげよう。そうしてお友だちになろう』

金ちゃんは何をもつてきたでしょう。金ちゃんは金槌と、釘と、鋸をもつてきました。

『これ、金槌、これ、釘、これ、鋸。これで、木をうちつけたり、板をひいたりするんだよ』

そうすると、先生がおつしやいました。

『新子ちゃん、すいぶん、お友だちができましたね。ここに
いる人、みんな、あなたのお友だちよ』

新子ちゃんは大きなこえでいいました。

『先生、わたしもみんなのお友だちになつたの』

先生はにこにこしながらおつしやいました。

『そうそう、新子ちゃん、えらいわね。あなた、もう、みんなのお友だちになつたのね。それでは新子ちゃん、何かしますか』

『先生、わたしはみんなします』

新子ちゃんがまた大きなこえでいうと、先生はわらいながらおつしやいました。

『だつて、一度にみんなできないわね。何からさきにしますか』

『そうそう、何からさきにしよう』

新子ちゃんは立ちあがつて、方々を見ました。新子ちゃんは何を見ただしよう。

新子ちゃんは、三ちゃんが積木で塔をつくっているのを見ました。ほら、一つ乗つかつた。また一つかさなつた。だんだん高く、もつと高く。

それから、マチ子ちゃんがお人形をだいて、歌をうたつて
いるのを見ました。『ねんねんよう、ねんねんよう、坊やは
よい子だ、ねんねしな』

それから、半ちゃんが書をかいているのを見ました。クレ

オンがうごく——赤い花がかける、青い葉っぱがかける。

それから、チヨ子ちゃんが繪本を見ているのを見ました。
ひこうきがとんでいる、じどうしやがはしつていいる。

それから、順ちゃんが粘土でつくつていいるのを見ました。
ベタベタこねたり、グルグルまるめたり、お皿ができる、お
だんごができる。

それからミヨ子ちゃんが折紙を折つていいるのを見ました。
そろえたり、たたんだり、鳥ができる、けものができる、人
もできる。

『わたしは積木をします』

新子ちゃんがいうと、先生はまたにこにこしながらおつし
やいました。

『ひとりでするの、新子ちゃん、えらいのね』

やりはじめた新子ちゃんは、たくさんかさねました、高く
高く——。そうすると、ガラガラツとくすれました。それか
らまたかさねました。高く、高く、高く——。そうすると、
またガラ、ガラ、ガラツとくすれました。けれども、またか
さねました。またくすれました。何度かさねて、何度くすれ
たでしよう。

けれども新子ちゃんはつづけました。もうはじめて幼稚園
へきたことはわすれて、いつしうけんめいつづけました。

どうしてでしょう。

お友だちがたうさんできたからですね。そうして、何をし
てよいかわかつたからです。

.....
毎日の保育に於けるお話には、いろいろな種類のものが話さるべきことは、いうまでもありません。創作童話、昔ばなし、自然ばなし、科學ばなし、傳説、民話すべて結構です。が、保育の立場から特に注意すべきは、生活ばなしでしょう。

生活ばなしとは、直接子供の生活を題材にしたお話であります。生活のうちに見出だされ、生活に即して構成され、生活に従て取扱われるお話であります。『子供の生活の中から生まれたお話』といつてもよいでしょう。

それを『特に注意すべき』第一の理由は、保育というものの性質からあります。保育が他の教育と違つて『保育』である所以は、それが生活教育だからであります。保育は何を通じて行われるかといへば、規則でも、命令でも、教授でもない、實際の生活を通じてであります。先生と園児と、又園児と園児と共に生活するところに、保育が成り立ち、働き出し、發展していきます。生活を除いて、生活を離れて保育はありません。従て保育に於けるお話も、子供の生活そのものに關連し、密接し、融合することが多ければ多いほど、深い意味と使命を持つことになりましょう。

『特に注意すべき』第二の理由は、保育の場である幼稚園乃至保育所の性格からあります。そこでは、先生と園児が毎日遇います。そうしていつしよに遊び、學び、歌い、食します。しかもそれが一年以上もつづきます。こんなに親しい關

係に於て、こんなに繼續した時間に於て、更にこんなに計畫された教育的環境に於て、先生と子供が生活を共にすることは、外にないでしょう。だから幼稚園乃至保育所は、子供のありのままの生活を觀察し、調査し、檢討する絶好の場といえましょう。

『特に注意すべき』第三の理由は、お話というものの作用からであります。子供がお話にひきつけられるのはいろいろなわけがありますが、その一つは、深淺多少の差はあれ、そこに『自己』を發見するからです。勿論自分そのものが出てくるものではありませんが、自分の性質や傾向や、又は希望や要求や、又は問題に對する指導や、疑問に對する解決などが、さまざま人物や事件によつて現わされているのです。だからその『自分』は間接であり客觀的なのですが、それだから暗示的となり自然感化的となつて、かえつて興味を喚び、共鳴を起し、印象を深めるので、そこがお話の微妙な獨壇場であります。そこで、間接であり客觀的でありながら、最も近い親しいお話は何かといへば『自分の生活の再現』が内容となつたものでしょう。

『特に注意すべき』第四の理由は、その時期即ち幼兒期の兒童の心理からあります。彼等の見聞經驗は淺く、従て人的活動の範圍は狭いので、餘り複雑した構成や婉曲な表現を持つお話に對すると、その奥に潜む『自己の姿』を發見することとはむずかしいのです。自分に最も近い又深い關係を持つ生活が取扱はれているお話が、最も強く訴えます。それから彼

等は、お話の中で、自分の知つてゐるものに會うことに、この上もない喜びを感じます。所謂再認識の喜びというのがそれですが、自分がよく知つてゐる幼稚園乃至保育所關係の生活が直接間接に再現されるお話に對して、この喜びがより多く觸發されることはいうまでもありません。そこに現われてくるのは私の影、私の姿、私の面かげではありませんか。彼等がそういうお話と強く結びついて、深い感化を受けることは當然でしょう。

以上のような理由から、保育に於て、生活はなしが『特に注意される』ことになるのであります。

さて、冒頭に掲げたお話は生活はなしであります。

これは、新入園児を中心とした生活から材料を得、その生活のありのままに即して構成され、その生活の實際に沿つて話されたものであります。

嘗て私は、自分の幼稚園の新しい保育期の初めに、このようなお話をしたところが、古い園児たちは非常に興味をもつて迎え、又新入園児たちに對して園の生活に親しみと勇氣を増す一つの階梯になつたことが看取されたので、それから新入園児があつた時は、よくこのお話をして、同じような結果を得ました。

ところが、最近讀んだアメリカのミツチエル女史が著はした『いまことばなし』の中の『お庭が見える窓があるお部屋』というお話が、それと殆ど同じような内容を持つてゐるのを

見て、おどろきもし、よろこびもした次第です。それでそのお話からよいところを拜借して、従来の私のお話のますいところを補い、改めて作つてみたのがそれなのです。

それにつけても、保育に於ける所謂生活はなし的な行き方は、アメリカの専門家の間にも取上げられてゐるのを見て、まことに心強く感じたのでした。

このお話の構成や取扱方について、一言つけ加えておきますよう。

その目的は、子供たちに社會的な協同協力の生活を示し、それに對する實際的な興味と意欲とを喚起しようとするところにあります。それには、園内の現實生活ですから、最も具體的經驗的で、ピンと來るにちがいありません。從て實際的な興味も意欲も、より強く鮮かに喚起されるにちがいありません。しかもその興味と意欲を實行に移し得る機會は目前に横たわつていて、いつでも行われ得るのですから、正に理想的であります。これも生活はなしの一つの特徴といえますよう。

社會的な協同協力の生活というのは、この場合、古い園児にとつては自分の知つてゐることを相手に教えてやること、その配慮と手數を通じて相手に幸福を與えることであり、新入園児に取ては、元氣と勇氣をもつて新しい環境に對處すること、教えられることを注意して受け、熱心をもつて行ない自分の世界を擴充していくことであり、それが發展してお友

だちになるといふよい結果を、相互に齎らすことであります。

態度としては、飽くまでも客観的な事件として話すこと、出てくる子供たちも、全然第三者として取扱うことです。材料も直接その場のことであり、人物も直接そこにいるもので、ともすると、その場のその子供たちのことを話すような氣持になり態度になり兼ねないのですが、そうすると『お話』でなくなつて、その場又はその子供に關する報告になり説明になり、或は批判になつてしまします。かくては聴者にとつては、關係は直接になつて一種の利害感を生じ、特別な緊張や、配慮や、好悪が働き出して、おちついて、味わつて、面白がつて聴くという心理又は態度がなくなつてしまします。お話はその精神に於ては、實に聴者に親しい直接なものですが、その形式に於ては全然客観的で間接なものであることを殊に生活ばなしの場合には、話者は忘れないようにあらたいものです。

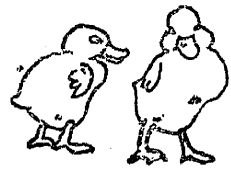
話方としては、問答が多いので、音聲に注意すること。一人々々の調子を、わざわざ作り聲までして違えることはいりませんし、又好ましくもありませんが、慫くとも先生と園児の話しぶりがくらは違わないと、表現が平板になるばかりでなく、兩者の區別がぼんやりして、お話全體が曖昧になつてしまふようなこともあるでしょう。しかしそのくらの違いは、その度毎に一々努力しないでも、話者がそのお話にはまゐりこんでいれば、自然に出てくるにちがいありません。元來

その事件が毎日實際に遭遇していることなのですから。殊に先生にとつては自分自身のことなのですから。

お話の中で、三ちゃんやマチ子ちゃんやんが新子ちゃんに教えて、三番目に、先生が半ちゃんを呼ぶところがありますが、この邊で、『何をもつてきて教えますか』と、子供たちに質問して、その答によつてお話を進め、それを繰返して、出来るだけ多くの子供にいろいろなものをおしやることは適當でしょう。かくすることは、子供たちの思考力表現力を働かせてその發達を助け、又園内の事物を自發的に再認識して、園及園の生活に一層なじむことになるからです、そうして更にそれによつてお話に参加する喜びを味わい、自己の能力に對する自信を加えるようになるからです。

少しく注意すれば、親しく子供たちに接している保育者は彼等の言語、會話、行動の中から、お話に應用し得る材料を屢々發見することが出来るでしょう。保育者こそは正に生活ばなしの理想的な作者としての位地に置かれる者といつてよいでしょう。

〔附記〕「いゝことばなし」は、波多野完治先生のおかけで讀むことができたものです。同書については同先生が、本誌第四十六卷第九號で紹介されました。



子供讃歌 六

倉橋惣三

五 保育理論研究者

1 古い書庫

明治の終、大正の初。

そのころのお茶の水幼稚園の建物は、鈍重な洋館づくりであつた。イギリス風の車寄せ張りだし屋根から玄關に上る。右が職員室、左が保育室。南の庭と北の小使室を通ずる細い廊下があつて、その奥は保育室が三つ南側につゞく廊下の北は窓越に樹木のはえしげつた古庭が見え、突きあたりは南と北にきれる廊下をへだてて、廣い遊嬉室（當時はそういう木札がかゝつていた）その遊嬉室は長方形二方窓の廣い部屋。南が遊園だが、すべての部屋は直接に庭へ出られず、従つて腰高の窓をへだて、光線がはいる。或る雪の降る日その遊嬉室で講演をしたことがあるが、うす暗い氣がしたのを覚えてゐる。正面に古い黒塗ピアノ、壁に古いフレイベルの肖像額、すべてもの／＼しい。

遊嬉室の北隣りが書庫になつてゐた。光線の入りかたの悪い部屋で、本の古い香がこもつてゐるが、さすがに明治以來の古典古書類が一ぱいつまつてゐた。

東大の大學院生活をつゞけていた彼が、圖らず東京女高師の講師を囑托せられたのは明治四十三年のことだつた。特に年代をしるすのはそのころの保育界の時代をおぼえてをくためである。就職のために人にたのんだことのない彼は、たれの推せんによつたものかしらないが、時の幼稚園主事は安井哲子氏、學校長は中川謙二郎氏であつた。

若い講師は女高師の上級生に毎週兒童心理學の講義をするほかは、別にいつけられることもなく、勝手に附屬幼稚園にいらびたつた。一高生以來遊びながら通いつけた幼稚園だけれど、天下はれての木戸御免となれば、自然一層遠慮がないというもの、安井主事とは以前からの知合でもあり（或は推せんも同女史だつたのかもしれない）幼稚園研究の便宜はふんだんに、自由にあたえられた。

從來から始終幼稚園にきていたが、子供と遊ぶのをたのしんだ時代、あとでは兒童研究のための時代で、幼稚園研究とか、保育理論とかいうことは、彼の別段興味をもたないことであつた。つまりひとり／＼の子供のあつまつている處というだけで、幼稚園といういれものや、何のために、そのいれものへ子供を集めるかというようなことは無頓著であつたのである。今から考えるとおかしいようなことでもあるが、幼稚園を主にして子供をあとにしてその對象とかにするというくせが、初めからつかなかつたためには幸でもあつた。

併し、前記の廊下の突きあたりの古い書庫は彼の興味をそつちへさそわずにはいながつた。彼はひまのあるのをいゝことにして、その古書の間に入りびたつて、片つ端からよみあさつた。後に彼がロンドン留學中、國立教育調査所の書庫にたてともつて英國教育制度の變遷をしらべた時と共に、彼として二大書庫詰め生活である。

その古い書庫にあつたものは、みんな明治初年からの保育書類である。その中には、明治九年版の桑田親五譯『幼稚園』同じく明治九年版の關信三譯『幼稚園記』明治十二年版の『幼稚園法二十遊嬉』をはじめ、當時からの古い筆寫本がつかみかさねられてあつた。それらはみな、美濃紙和と同じ本の古雅な體裁で、幼稚園といふ字にをさなごのそのとふりがながつてあつたり、フレーベルを布列別氏と書いたり、幼兒と書かず稚兒と書くといつた風でいゝといえぶりゆたかに、處々虫くいさへある。この幼稚園が創められたころの文敎の姿を追憶させるものであつた。これらの古版本はいづれも今にして、貴重な珍品であるが、それよりも當時の若き保育研究生、後の豊田英雄老女史や、同じく當時の若き女生徒、後の氏原女史（膳たけ女史の姉君）などの保育講義の手録や、保育教材の筆寫の類は、一層珍重すべきものであつた。

彼はこれらの虫喰い本をよみふけるにつれて、どうしてもその原典に入らずにはいられない。彼が、フレーベルの原典ととり／＼みはじめたのはこの時である。その當時幼稚園にあつた保育洋書類は、フレーベル原典やその英譯本、新しいところで、初期米國本があるくらいで、この時代の保育研究は後の言葉でいえば『フレーベリヤン オルソドキシ』』にかざられていたのであつた。彼はフレーベルの神秘主義哲學をシェリングにさかのぼり、またフレーベ

ルの大ざつばな生物科學的考へ方を、その據りどころ、オーエンに（獨逸生物學者）もとめたりして、苦闘した。この間勿論『人間の教育』や『母と子の遊戲の歌』や恩物に關する幾多のコンメンタリーによつてこの偉大なる教育天才フレーベルの幼兒教育の精神と創意とに深く感嘆したことはない。彼は後アメリカで、若い保育論者と語るたびに、新保育論の結論に於ては一致しても、彼等にフレーベルの基本研究をしていないものゝすくないのには頗る敬意を感じ難かつた。

序に念のためしるしておくが、この鈍重なる建物と古い書庫とだけから當時のこの幼稚園の保育内容と推定してはならない。安井主事は英國がえりの新しい着眼を以て、種々の改革を實行していた。その物靜かな中に、徐々に行なわれてゆく新しいことには、彼も蔭乍ら感服していた。幼兒にうたわせる歌などに古くさいものからあらためられたのもすくなくなかつたと思う。恩物は、大昔ほどではないが行なわれていたらしかつたけれども、自由遊びの尊重は十分行なわれていた。又小さいことでは、幼兒の辨當いれとして、バスケット（空氣の通るために）を用ひはじめたことや、園内でエプロンを用いることなども、安井主事の創案であつた。明治九年創立といふこの幼稚園も古いいわれだけにとゞまつていたのでは決してない。

2 フレーベリヤン オルソドキシシーに對する疑惑

書庫で古本の讀みあさり、倦きては遊園で子どもらと遊び。その庭は明るくて、四季の風が動く。子どもらは、ピン／＼と活きている。彼の頭は、傳統と新鮮との二つの境にゆるがざるをえない。フレーベルの根本精神はこの庭でも、或は庭でこそより多く眞に活躍するが、フレーベル流の保育方法のこまかい仕方はどうも庫の中に残る。彼は保育の實際には、もとより手を出さないが、保育室のなかにはいつて見學することは講師になつてからずつとふえたこの時、若しこの幼稚園が、ほんとうに頑固なフレーベリヤン、オルソドキシシーであつたら、彼はそれにとらえられなかつたかもしれない。その反對にもつと近代的なものであつたら、疑問も心に起らなかつたかもしれない。そういつてはなんだが、當時の中途半端的なところが批判の對象になつた。——彼にフレーベリヤン、オルソドキシシーに對する疑惑がきざし來つたのである。

後で知つたことであるが、アメリカでフレーベリヤン、オルソドキシシーに對する疑の先づ起つたのは、あの風光明媚なカルフォルニア海岸のサンタ・バルバラ幼稚園の若い保母さんの間であつた。そこには、砂と小石と草花をもつ

て、ゆたかに自然教育をうける子ども達がいたのである。この幼稚園でも、子供達は砂や小石や木の葉でよく遊んでいた。若い彼にフレイベリヤン オルドキシーに對する疑惑が起つたのは、理屈もないあたり前のことであつたのである。たゞ一方で、フレイベルの恩物論に讀みふけり、殊にその多くの傳統的註釋本に、理詰されていた彼としては、この疑惑についてサンタ・バルバラのお嬢さんたちのように氣樂ではいられなかつた。

そのうち彼は、東大の圖書館で、豫て兒童心理研究のために讀みつゞけていた、ペヂ・セム (Pedagogical Seminary) のなかで、クラーク大學の若き學徒、エッビーの幼稚園改造論を見つけた。論文はこの雜誌の性質上、スタンレーホールのお息のかゝつてゐるものに相違ないが、若い學徒の清新な、キビ／＼とした筆致は、フレイベリヤン オルドキシーの疑惑に走つてゐる彼の心に、活をいれた。

臆病というか、おとなしいというか、彼はその胸に、萌えあがる革新觀を保育室の中えはもちこまなかつた。然し遊園の自由遊びが彼によつて幼稚園の眞面目になつた。この時、スタンレーホールの新幼稚園もまだなかつたし、モンテツソリーの名も、デュエーの名ももとよりなかつた。氣取つていえば、彼は、いつものように、こどもの自然だけから教えられていたといつていい。

彼のフレイベル研究はもとよりやまなかつた。フレイベルはそんなちよこ／＼とかたづくものではない。然し彼が書庫を出て、子どもたちと本校の草原の方へゆくことは、著しくふえて來た。先生たちもそれを是認したし、子どもたちは勿論大よろこびであつた。もうにいちやんでなく、兎に角く先生である彼もそれを一番樂しんだ。

彼がこうして幼稚園をたのしんだり疑つたりしている時に、外はどうであつたのであろうか。外といつても全國にわたつてのことは彼には少しもわからない。東京内として一口にいえば、たゞこれそれ／＼の傳統に従つてなごやかなものであつたらしい。ミッシェンの幼稚園では、アメリカ(古い)輸入の相當嚴密なフレイベリヤン オルドキシーであつたらしいが、市内一般の公私立幼稚園は、お茶の水幼稚園がそうである如く、なまぬるいお湯をわつたフレイベアヤン オルドキシーというところであつたようだ。大學には保育を論ずる學者はいないし、在野の子供黨には尊敬すべき人々があつたが、兒童心理學者か童話の達人か教育營護人かであつて幼兒教育學者ではなかつた。何かの會で人々の傾聴する講演といえ、幼兒德育談か、一般兒童心理學か、兒童保健學かであつた。彼は保育理論プロバアーに就て教えを乞うべき人をどこにも求め得なかつた。兒童心理研究は保育界に缺く可からざる基礎要件で

あるが、心理學が即教育學でないことはもとよりで、當時のかけのうすい保育論では教育哲學なしの心理學にたよつていたといつていゝ時代であつたかもしれない。

とにかく彼は思うこと疑うことを誰にきいてもらいようもない、あわれなよるべない保育理論研究者であつたのである。

但し、こうしてゐる間に、彼の幼稚園に對する興味は、ぐんぐんとつよまつていつた。

3 フレーベル會機關誌「婦人と子ども」の編集

彼は女高師附屬幼稚園にあつた保育の研究會「フレーベル會」から出してゐた月刊「婦人と子ども」の編集をひきうけた。「フレーベル會」は後に「日本幼稚園協會」に「婦人と子ども」は後に「幼兒の教育」に後年抜が改名したものである。この雜誌は明治三十年代頃の創刊で、極く上品なものであつたが、全く同情寄稿によるもので、彼は月々の原稿を集めるのに苦心した。そこで彼が自分で書かなければならぬことが多く、時にはいろ／＼の變名で一冊全部をうづめたこともあつた。それもいゝが、保育界の新參者として、書く可き材料の貧弱なものには困つた。編集者ともなれば、保育の何等かの主張位はもつていなければならぬ筈であるが、その點前に述べた通りで心細い。殊に教育は實際經驗なしには語るべきものではない、といふ彼の若い信條から、たかだか、應用兒童心理學位のものしか書けない始末だつた。

然し、この雜誌に關係することによつて、保育界の人々に接する機會も多くなり、多少は廣く、全國の保育界の傾向や、動靜を知る機會をあたえられたことは、彼にとつてどんな幸であつたか判らない。當時は全國各地に、まだそう多くの保育會は出來ていなかつたが、その中で、京都、大阪、神戸の三市聯合保育會が活潑なことは、年々の報告で知られた。卒直にいつて、東京の保育界の保守的に靜かなのに比して、關西こそわが國保育の中心であるような感もあつた。東京でも、わづかに、フレーベル會例會が、月々開かれ、又、夏期講習が催されたりして、それ相當の、地味な歩みはつゞけられていたのであるが、何分、大きな東京のなかの、小さいな幼稚園界というふうを免れなかつた。その證據には、例會や、講習の講師として、かけだしの若い彼が、しば／＼ひきだされたことでもわかる。

ついでながら、そのころのことで、彼のいつまでも忘れられないことを一つ書かして貰う。——或る日のフレーベル會例會で、彼が家庭教育を題目として講演したことがある。何を語つたかすこしも覚えていないが、たぶん例によ

つて、通俗児童心理學に、教育的空想と加えたようなものであつたと思う。その講演を、安井哲子氏や、野口幽香子氏も聴いていてくれたのであるが、講演後此二人のおばさん聴講者が、ニコ／＼と彼にいつた言葉はこうであつた。「今日はいゝおはなしでしたね。だが、あなたが、お父さんになられてから、もう一度、おんなじお話を、うかゞいたいものですね……………」

これは、もとより皮肉でも何でも無い、あたゝかいことばであるか、彼にとつては、相當にその意味をかみしめさせられる言葉であつた。というよりも、後になつて、いよ／＼その味がわかつた言葉である。彼は、ずつと後年、家庭教育の問題について、深い關心をもち、常に幼児教育と並べて、彼の研究題目にしていたが、幼児教育の方はとにかく、家庭教育について、まだまとまつた著述をしない。人にすゝめられても、自分の子を、一應の學校教育を終えさせ、結婚させ、つまり、一通り、親の経験を、たどらないうちは、家庭教育のことは、ほんとうには論ぜられないと思つて、筆を、おさえて來た譯であつた。保育理論の研究は、それに必要な、學問の一通りといくらかの保育實際の研究とても、何かしら、いえるものであろうが、家庭教育は、親としての實經驗なしには、眞實を語れるものではないというのが、彼の信念(?)であつたからである。そしてこれが、安井、野口兩女史の、じようだんまじりの、然も好意にみちた、あの時のことばの賜物であつたことを彼は忘れない。——いつでも、思いがけない處で、教えられて來た彼である。感謝すべきである。



東京都保育連合會の

カリキュラム立案に當つて

委員長 松 石 治 子

幼稚園や保育所で幼児を指導する場合の生活計畫の大切なことは昔も今も變らないこととありますが、此の頃特に幼稚園や保育所のカリキュラムと云う言葉が新しい響きをもつて私共の腦裡をかすめます。

新しい保育は幼児の生活經驗を中心として設計されなければなりません。従來の保育の行き方は、幼児の生活を考える前に唱歌とか遊戲と云ふ様な手段のみを羅列することが保育の筋道の様に思はれ、幼児の生活が保育の定つた軌道の上を順調に走つて行けば最善の保育の様に考えられてゐました。従つて保育の仕組みを表す保育案と言ふものは大抵の場合幼児の生活を無視した言はゞ押しつけ教育の傾向が強かつたのであります。

新しい保育カリキュラムは新教育の目標に従い、幼児の現

實生活の筋道の上に立つて計畫された保育過程で、幼児の楽しい生活經驗を幼児の個性に即して繰り掛け、幼児をとり巻く社會や郷土や家庭生活から取材して幼児に最も適切な指導をし様とする教育過程でありまして、今迄の様に大人が机上で考えたプランで幼児を追い廻すのではなく、幼児の生活を通してよりよい生活に迄導こうとするのであります。

小學校や中學校のカリキュラムは教科を中心とする行き方や作業を中心とする行き方があり、各々特質があつて教育の効果をあげる事が出来ますが、幼稚園や保育所の生活中心のカリキュラムは實に範圍の廣い複雑なものでありまして、其の組立ては容易ならぬことであります。

一一

従來の保育案は其の月、其の週に大體あてはまる様な中心題目を選んで先づ幾つかをとりあげ、行事を考え、五項目

（唱歌、遊戲、談話、手技、觀察）をならねればそれで生活の枠は出来たのでありました。この生活の枠は時には外見上非常に教育的に整然と見えますから如何にも良い計畫の様に見えたが、其實幼児には迷惑なものが多かつたのであります。保育案に忠實な保育者は常に幼児の現實生活を無視して居たと申しても過言ではないのであります。この結果幼児保育が幼児の生活と離れるといふ事を私共は意識しないでもなかつたのですが、考える機会に恵まれなかつたのです。終戦後の日本の教育は刷新されて、正しい自由を子供に與え様として居ります、即ち子供中心の教育が實施され、幼稚園や保育所も新たに幼児の現實生活の上に立脚して、幼児の幸福な生活の道筋を考え様として居ります。

此の機会に東京都保育連合會では都内各公私國立幼稚園及保育所の代表者を以てカリキュラム委員會を持ち、多年の體驗と豊富な研究を披瀝して、新しい幼児教育のカリキュラムの作成に努力して居ります。現在着々その完成を急いで居ますが、何分にも幼児生活の過程は餘りにも廣範圍で、種類が多く、各園各所の生活環境も異なる上に、興味を中心も一定する事が出来ぬため困難を極めて居りますが、委員の方々の非常に熱心な研究と協力により追々形が整いつつあります。次にこの會の現在までの協議事項と決定線を記して、御參考に供しましょう。

一、協議題「幼稚園と保育所のカリキュラムは何を中心に編成するか。」

二、 「幼稚園と保育所の生活内容の相違はどう表示するか」

三、 「カリキュラムの形式はどう定めるか」

二二

以上の問題を協議した結果、總括すれば次の様な決定を見現在は之に基いて編成して居ります。

（一）幼稚園や保育所のカリキュラムは勿論生活を中心として考へて行きます。生活とは幼児の日常経験した事をとりあげて行くことで之が新教育の目標と合致するものであると思ひます。（二）幼稚園と保育所の生活内容は勿論同じ事もありますが目的が異なる以上そこに差異の出来るのは當然で、幼稚園は教育の部面を多くとり入れ、保育所は生活指導の部面を強調することに定めました。（三）カリキュラムの形式をどうするかの問題は随分意見が出ましたが、結局従來の主題という言葉が一番分り易いのでありますが、すべて小學校カリキュラムに準じて考えることになり「單元」という言葉を用いる事にしました。單元というのは一つの仕事のまとまりを表すので、保育カリキュラムに適したものだという意見が多かつたので之に定めました。しかし、次に来る目標を考えた時、單元は大單元と小単元の二つに分けるべきであることが主張されました。しかし大單元といふ大きなまとまり。たとえば春のあそびという様な一學期に一つという大きなものが、興味が轉々として變つて行く幼児の生活の大きな主題と

なる事が果してよいかと言ふ事になり、之は大單元をやめて小單元で行くべきだという事が全員の意見でありましたので先づ一ヶ年の小單元をきめて行く事にいたしました。

四

小單元の次には之を選んだ目標をあげ、次はこの目標に従つて幼児の生活内容を明示する事になりました。之は保育要領に示された「幼児の楽しい経験」を幼児の生活の中に生かし展開させてゆくので、リズム、音楽、見學、お話、自然觀察、自由遊び、繪畫製作、休息、人形芝居、劇あそび、健康教育等幼児生活の全部を盛り込んで行くのであります。

この中に盛り込まれたいろ／＼の経験はみな教育目的を達成する爲に一つ／＼が價值を持つものでなければならぬのであります。遊びは遊びでも、教育の一つの設計でありますから決して迂闊に作る事は許されません。

以上で現在までの委員會の動きをお伝えいたしました、前途は益々多難、一朝一夕には成し遂げられぬ大仕事ではあります、愛する幼児の生活を一日も早く正しい軌道に乗せて見たい、舊い殻を抜け出した雛鳥が、自由に明るく伸び／＼とあそぶ状態を思いつく、ためまぬ努力と研究を續けて居ります。幼稚園、保育所カリキュラムが全國でそれ／＼編成されつゝあることは誠によろこびにたえません、私共も一意専心その道を辿つて居ります。以上東京の委員會の様子を中間報告いたします。

(七頁より)

二、好ましい行動の爲し易いよう、好都合の條件を作つてやること

三、保母先生の間、幼稚園と家庭との間、両親の間等に保育上意見の食い違ひのないようにすること

を附け加へ皆様と共に幼児達の幸福を祈りたいと思ひます。

註一 Healy, William, and Bronner, Augusta, New Light on Delinquency and Its Treatment, Yale Univ. Press, 1937, 226 pp.)

註二 Hattshorne, H., and May, M. A., Studies in the Nature of Character, Vol. I, 1928, 306 pp.

註三 Thorndike, Educational Psychology, Vol. III, 1914, 313 pp.) (ウチへ)

(一一頁より)

衣服はよく拂つて外の泥を持ち込まぬ様にします。ブラツシがあれば、子供たち自身お互に拂ふことが出来ます。手洗ひも洗顔を勿前一人で出来る様に躰けておけば、さう世話が焼けないでせう。

保母さんの中に戸外の嫌いな方があるのには一番困ります保母さん自身の體の状況もあるのでせうが、卒先して戸外になじんで頂きませう。お日様の恩恵は發育さかりの子供には實に大切であります。そしてその影響は今に表れることが少く將來にみのあることをよくよく知つておきたいものです。立派な子供にしたいものです。

幼 児 の 心 理 的 發 達 (九)

東京家政大學教授 山 下 俊 郎

六、六歳兒の心理的發達

幼兒は六歳になれば就學年齡に達するわけであるが、幼稚園保有所の最年長組には六歳すぎた幼兒もかなり含まれてゐる。そこで幼兒の必然的發達の最後の段階としての六歳兒の發達について今度は考へて行くことにしたいと思う。六歳になれば就學するに十分なだけの發達が見られることはいふまでもないが、心理的發達の段階から言えば六歳兒はまだ幼兒的段階にゐるといえる。このことをいままでと同じように四つの方面から考へて見たいと思う。

(1) 運動的發達

運動的發達の中で全身的運動については、すでに五歳兒の所で述べたように、幼兒たちは五歳までのあいだに一とありのからだのこなしを身につけている。いろいろの運動のこなし

しが充分に出来るようになってゐるので、幼兒はいろいろの運動の力を使つて實に活潑に動きまわる。ほとんど絶間なしに疲れることを知らないであばれまわつてゐるのが、この年齢の幼兒のほんとの姿だといつていいであらう。ブランコをこぐときなど見てゐると實にうまく身體をつかうことが出来るようになってゐる。とぶこと、はねること、スキップすること、いすれもすいぶん上手になつて來てゐる。大きな床積木や机などを押したり、ひつばつたり、持ちあげたりして實にうまく動きまわる。全身的な身體のこなしをうまく使うことと力を使うことに子供たちは限りない喜びを感じてゐるのである。ことに男の子はすもうなんかを喜ぶし、男のお客さんや園長には力一杯にぶつかつて來て、ぶらさがつたり、よじ登つたりする。みんなこの年齢の子供たちの運動的發達の現われである。

手先の細かな巧みさもかなり進んで來てゐる。食事のと

きのはしの使い方など五歳児の所で述べたように、訓練すれば五歳児でもすでに相當にうまく使えるようになるのであるが、このことは六歳児においては一層はつきりと見られるようになって来る。いろいろの道具をつかうこともだんだんすすんで来る。はさみなどもすいぶん上手に使えるようになる。ナイフ、鋸などもだんだん使うことが出来るようになって来る。このようないろいろの道具を使うことにはこの年齢の幼児は非常に興味を持つてゐる。女の子など大きい針を使つて縫うことをすすんでやろうとするようになることが見られる。しかし、六歳児にはまだ本格的な手さきの巧みさは求められない。五歳児の所で述べたように、十歳ごろまではまだまだ基本的な大きい運動の發達に重きをおかれる時期である。あまりに細かい技巧を要求することは無理な註文である。幼児保育者はこのことを忘れてはならないと思う。

(2) 知的發達

子供たちが六歳になれば就學年齢に達するというのは、心理的發達のすべての間において就學に耐え得るだけの發達が期待されるからであるが、中でも小學校の學習に對しては知的發達が最も大きい意義を持つてゐる。このことから考えても六歳児の知的發達には一つの段階を劃する意味が含まれてゐると考えられる。

まず、言葉の發達から考えて見ると、六歳になれば子供たちは話し言葉を一とおり身につけてゐる。五歳児ですでに大

人との話に一とおり不自由がなくなつてゐるのであるが、六歳児はこの點で一段とすすんでゐるのである。たとえば語彙について見ると、古い久保良英氏の研究で六歳の幼児が自分で使う言葉は二、二八九におよんでいる。しかし理解出来る言葉を見るともつと多い。大體小學校入學時の兒童の理解語數は約五〇〇であると考えられている。六歳児はほぼこれに近い理解語を持つてゐると考えられるので、使える語數の約二倍近いといわなければならぬ。そして六歳児はこのような言葉の發達を反映して、實によくしゃべる。このおしゃべりはもう一つの面から見ると、しゃべりたいだけの心の内容がたくさん出来て來たことを意味する。いろいろの心の中味が口をついてほとばしり出るわけである。ところがこのほとばしり方が口で間に合わない場合がある。もどかしくなつて來る。そこで六歳児にはどもりが見られることが多くなるのである。

六歳児は自分のまわりの生活環境に對してまたいろいろの知識を身につけて來る。例えば、赤、黄、青、緑というような色の名前を六歳児の大部分の子供たちは知つてゐる。またいろいろの生活經驗をすでに重ねて來てゐるので、いろいろの假定的な場面に對して適當な解決の仕方を考えることが出来るようになってゐる。「もしあなたがどこかへ行こうとして電車に乗りおくれたらどうするの?」と聞くと小さい子供だと「行くのをやめちやう」というような答をするであらう。しかし、六歳児は「次の電車が來るのを待つてそれに乗

つて行く」という答をするのがふつうである。あるいは「あなたが何か人の物をこわしたときにはどうするの？」と聞くのと「あやまる」というようにその場に即した正しい答をするようになっていく。このようなことは普通には常識といわれることであるが、この常識というのは日常の子供の生活の中にしじゅう出て来ることがくり返されている間に、このような行動と態度とを子供たちが身につけることによつて生れて来るものである。たゞ教えられたというだけではほんとの身についた知的生活ではないと考えられる。経験を重ねることによつてこのような實際に即した知識が身につくのである。六歳児はこのような経験から實際の生活の技術としての知識をすでに身につけているのである。

記憶の力も六歳児では相當にすすんで来ている。短い文章——もちろん幼児の繪本などにあるような幼児の理解するもの——を讀んで聞かせると、すぐにそのまゝいえる。もちろん一つやそこいらは間違ふことはあるが、大體よく覺えるようになっていく。また積木を四個ならべて置いて、これをいろいろの順序でたいて見せると、それをそのまま模倣してたたくことが出来るようになっていく。記憶は八歳ごろになるともの凄しい勢いで發達するのであるが、六歳児はそろそろその激しい勢いへの上り坂に掛つていえるであろう。推理力や構成力といったような面でも六歳児はまた一段と發達している。五歳児の所で見たような基石を一定の關係にしたがつてならべるといふようなしごとをやらせて見てもか

たりいろいろいいの關係をつかんでいることが見られる。推理の力がそれだけすすんで来たのである。また二枚の三角形の板を與えていろいろの形を作らせて見るとかなりよくいろいろの形を組み立てる。積木を積んでも相當に複雑なものを組み立てて積んで、いろいろの形を作ることが出来るようになっていく。このような力がすすんでいくことは繪の發達を見ても分かる。六歳児はすでに色々のものを心の中に描みそれを表現するだけの能力を備えるようになっていくのである。

次に、六歳児の全體的なものの考え方について見ると、一般に幼児はいわゆる自己中心的な考え方の世界にいる。自分と他との立場がまだ十分に區別されない未分化な状態にいるのである。この自己中心性というものがもたなつて幼児には、想像と現實との區別がつかなくつたり、自分と同じようにすべてのものに心を認めるといふアニミズムといわれる考え方をしたりする。このような自己中心性にもづく幼児的な考え方はだんだん年齢を重ねるにしたがつて段々と解消して行くのであるが、六歳児はそろそろと自己中心性というもののから少しでもぬけ出そうという所にかかつている。すなわち、想像と現實との境目が少しはつきりしかけて来て居る。またすべてのものが自分と同じように心を持つているとは考えないで、動くものだけに心を認めるといふ段階に入りかけている。もちろんこれは幼児的な自己中心性の段階からぬけ出そうという體勢を示しているというだけであつて、次への發達をはらんでいる状態に在るといふべきであらう。

記 録

CIE ヤイデー女史

都内の幼稚園を視察

司令部の幼稚園擔當官ヤイデー女史が二月七日都内の二幼稚園を視察した。午前十時文部省大島初等教育課長、玉越事務官、大串技官及び幼稚園關係代表者と共に、臺東區松葉町の明和幼稚園を訪れた。復興間もない明るい園舎を中澤主事の説明で一巡、熱心に視察されるなかにも一幼児の差出す折り紙細工を微笑みながら受け、所持していた寫眞をお禮に與えるやら、幼児達の「グッドモーニング」の挨拶に、鮮かな日本語で「コンニチワ」と應えるなど和やかな一時間をすごし續いて同區黒門町の臺東區立黒門幼稚園を訪れた。戦災をまぬがれた小學校併設の施設を、金子園長の案内で、保育の實際をつぶさに視察し、幼児達の演ずる人形芝居にしばし足をとめ、幼児達一同から贈られた人形「汐汲」に感激の眼をまたたかせながら「アメリカへ歸りましたらこのお人形さんをアメリカのお友達みんなにみせます。そして早速お禮のお手紙を出します。これを機會にみなさんとアメリカのお友達と

お手紙を出しあうようにすることができるようになりました」と感謝の挨拶をした。つづいて参加者一同からのアメリカの實情等についての質問に一々應えられ十二時半視察を終えた。

なお午後一時からお茶の水大學附屬幼稚園で保育要領改訂委員會、幼稚園教育課程幼兒指導要錄協議會共同主催のヤイデー女史を圍む懇談會に出席され、同附屬幼稚園の幼兒の劇遊び等を見た後、午前にも増して和やかな歡談が四時まで續けられ記念撮影の後散會した。

官廳公示連絡事項

兒童福祉法による措置等の

ため支出する費用の限度

厚生省發見第二三號

昭和二五年二月一六日

厚生省兒童局長
厚生大臣官房會計課長

各都道府縣知事殿

兒童福祉法による措置等のため支出する

費用の限度に關する件

兒童福祉法第二十二條から第二十四條まで及び第二十八條第一項第三號の措置に要する費用の限度に關しては昭和二十三年十二月二十九日厚生省發兒第六十四號通知によつて實施してきたのであるが、今般米價及び兒童福祉施設職員の給與ベース引上等を考慮し、標記限度を全面的に改訂し昭和二十五年一月一日にさかのぼつて、今後この第三次改訂により、實施することになつたから左記事項了知の上遺憾のないようにせられたく命により通知する。

なお本通知により昭和二十三年十二月二十九日厚生省發兒第六十四號兒童局長、會計課長通知「兒童福祉施設最低基準施行に伴う費用の限度に關する件」はこれを廢止する。

記

一、事務費の限度

1 事務費とは、施設の維持經營に必要な職員に伴う經費（俸給、給料、諸手當、旅費等）及び事務執行に伴う經費（備品、消耗品費、事務所に必要な光熱費等）をいい、この費用の限度は、各施設の收容人員の多寡に應じ、一人一ヶ月當り左表のとおりである。

2 前項にいう收容人員とは、所謂收容定員と異り、昭和二十五年一月一日現在において過去三ヶ月間法によつて措置した收容延人員及び私約契約により收容した延人員の合計をその三ヶ月間の日數（保育所については休日を除く）で除したものをその

施設の收容人員とする。昭和二十五年度以降においては、昭和二十四年第四、四半期における收容人員（被措置的契約の合計）をその期の日數（保育所については休日を除く）で除したものを昭和二十五年度第一、四半期における收容人員とし、以後順次四半期毎に收容人員を改訂していくものである。

3 施設を新設した場合は當初（收容開始月）の一ヶ月間は所謂收容定員を以てこの月の收容人員とする。第二ヶ月目に於ては當初の一ヶ月間の收容延人員をその月の日數で除したものを收容人員とし、この第二ヶ月目が四半期の最初の月に該當する場合は、過去一ヶ月間の收容延人員をその月の日數で除したものをその四半期の收容人員とする。第三ヶ月目においては、過去二ヶ月間の收容延人員をその二ヶ月の延日數で除したものを收容人員とし、この第三ヶ月目が四半期の最初の月に該當する場合、過去二ヶ月間の收容延人員をその二ヶ月の延日數で除したものをその四半期の收容人員とする。以後の收容人員の算定方法は前第二項と同様四半期毎に改訂していくものである。

4 施設を擴張した場合、當初（收容開始月）の一ヶ月は擴張の部分のみ所謂收容定員を收容人員とし、既存施設の收容人員との和を當該施設の收容人員とする。第二ヶ月目においては當初の一ヶ月分の既存、擴張兩部分の收容延人員の和をその月の日數で除したものを收容人員とする。第三ヶ月目に於ては、過去二ヶ月間の既存擴張兩部分の收容延人員の和をその二ヶ月の日數で除したものを收容人員とする。

第二ヶ月目及び第三ヶ月目が夫々四半期の最初の月に該當する場合は、前第三項に準じて取り扱い、以後四半期毎に改訂していくものである。

5 私的契約により收容したものに對しては、事務費の支拂がなされないのは勿論であり事務費は法により措置した者についてのみ支拂われる。この場合法により措置した者の前期三ヶ月間における費額を收容人員算定の方法と同一方法により算定し、

事務費の限度に關する一覽表

(保育所に關するもののみを掲げ他施設は略す)

一、保育所

收容人員	五〇人まで	五一人以上	六一人以上	七一人以上	八一人以上	九一人以上	一〇一人以上
月 額	四七、六〇	四六、七〇	四四、八〇	四二、九〇	四一、三〇	三九、八〇	三九、二〇
(日 額)	一五、九二	一五、三九	一四、八六	一四、三三	一三、八一	一三、二九	一三、〇四
收容人員	一一一人以上	一二一人以上	一三一人以上	一四一人以上	一五一人以上	一六一人以上	一七一人以上
月 額	三三、七〇	三七、二〇	三六、七〇	三六、二〇	三五、五〇	三五、八〇	三五、四〇
(日 額)	一一、二九	一二、五四	一二、二九	一二、二〇	一一、九五	一一、八六	一一、七八
收容人員	一八一人以上	一九一人以上	二〇一人以上	二一人以上	二二人以上	二三一人以上	二四一人以上
月 額	三九、七〇	三九、〇〇	三八、六〇	三八、二〇	三七、八〇	三七、四〇	三六、九〇
(日 額)	一三、二九	一三、〇〇	一二、八六	一二、七〇	一二、五八	一二、四六	一二、三二
收容人員	二五一人以上	二六一人以上	二七一人以上	二八一人以上	二九一人以上	三〇一人以上	三一一人以上
月 額	四三、三〇	四三、〇〇	四二、六〇	四二、二〇	四一、八〇	四一、四〇	四一、〇〇
(日 額)	一四、一一	一四、〇二	一三、八六	一三、七〇	一三、五八	一三、四六	一三、三二
收容人員	三二一人以上	三三一人以上	三四一人以上	三五一人以上	三六一人以上	三七一人以上	三八一人以上
月 額	五二、九〇	五二、六〇	五二、二〇	五一、八〇	五一、四〇	五一、〇〇	五〇、六〇
(日 額)	一七、九七	一七、八六	一七、七〇	一七、六〇	一七、四六	一七、三二	一七、一八
收容人員	三九一人以上	四〇一人以上	四一人以上	四二人以上	四三人以上	四四人以上	四五一人以上
月 額	六二、九〇	六二、六〇	六二、二〇	六一、八〇	六一、四〇	六一、〇〇	六〇、六〇
(日 額)	二一、九七	二一、八六	二一、七〇	二一、六〇	二一、四六	二一、三二	二一、一八
收容人員	四六一人以上	四七一人以上	四八一人以上	四九一人以上	五〇一人以上	五一一人以上	五二人以上
月 額	七二、九〇	七二、六〇	七二、二〇	七一、八〇	七一、四〇	七一、〇〇	七〇、六〇
(日 額)	二四、九七	二四、八六	二四、七〇	二四、六〇	二四、四六	二四、三二	二四、一八
收容人員	五三一人以上	五四一人以上	五五一人以上	五六一人以上	五七一人以上	五八一人以上	五九一人以上
月 額	八二、九〇	八二、六〇	八二、二〇	八一、八〇	八一、四〇	八一、〇〇	八〇、六〇
(日 額)	二七、九七	二七、八六	二七、七〇	二七、六〇	二七、四六	二七、三二	二七、一八
收容人員	六〇一人以上	六一一人以上	六二人以上	六三人以上	六四一人以上	六五一人以上	六六一人以上
月 額	九二、九〇	九二、六〇	九二、二〇	九一、八〇	九一、四〇	九一、〇〇	九〇、六〇
(日 額)	三〇、九七	三〇、八六	三〇、七〇	三〇、六〇	三〇、四六	三〇、三二	三〇、一八
收容人員	六七一人以上	六八一人以上	六九一人以上	七〇一人以上	七一一人以上	七二人以上	七三人以上
月 額	一二二、九〇	一二二、六〇	一二二、二〇	一二一、八〇	一二一、四〇	一二一、〇〇	一二〇、六〇
(日 額)	四〇、九七	四〇、八六	四〇、七〇	四〇、六〇	四〇、四六	四〇、三二	四〇、一八
收容人員	七四一人以上	七五一人以上	七六一人以上	七七一人以上	七八一人以上	七九一人以上	八〇一人以上
月 額	一五二、九〇	一五二、六〇	一五二、二〇	一五一、八〇	一五一、四〇	一五一、〇〇	一五〇、六〇
(日 額)	五〇、九七	五〇、八六	五〇、七〇	五〇、六〇	五〇、四六	五〇、三二	五〇、一八
收容人員	八一人以上	八二人以上	八三人以上	八四一人以上	八五一人以上	八六一人以上	八七一人以上
月 額	一六二、九〇	一六二、六〇	一六二、二〇	一六一、八〇	一六一、四〇	一六一、〇〇	一六〇、六〇
(日 額)	五四、九七	五四、八六	五四、七〇	五四、六〇	五四、四六	五四、三二	五四、一八
收容人員	八八一人以上	八九一人以上	九〇一人以上	九一人以上	九二人以上	九三人以上	九四一人以上
月 額	一七二、九〇	一七二、六〇	一七二、二〇	一七一、八〇	一七一、四〇	一七一、〇〇	一七〇、六〇
(日 額)	五七、九七	五七、八六	五七、七〇	五七、六〇	五七、四六	五七、三二	五七、一八
收容人員	九五一人以上	九六一人以上	九七一人以上	九八一人以上	九九一人以上	一〇〇一人以上	一〇一人以上
月 額	一八二、九〇	一八二、六〇	一八二、二〇	一八一、八〇	一八一、四〇	一八一、〇〇	一八〇、六〇
(日 額)	六〇、九七	六〇、八六	六〇、七〇	六〇、六〇	六〇、四六	六〇、三二	六〇、一八
收容人員	一〇二人以上	一〇三人以上	一〇四一人以上	一〇五一人以上	一〇六一人以上	一〇七一人以上	一〇八一人以上
月 額	一九二、九〇	一九二、六〇	一九二、二〇	一九一、八〇	一九一、四〇	一九一、〇〇	一九〇、六〇
(日 額)	六四、九七	六四、八六	六四、七〇	六四、六〇	六四、四六	六四、三二	六四、一八
收容人員	一〇九一人以上	一〇一人以上	一〇二人以上	一〇三人以上	一〇四一人以上	一〇五一人以上	一〇六一人以上
月 額	二〇二、九〇	二〇二、六〇	二〇二、二〇	二〇一、八〇	二〇一、四〇	二〇一、〇〇	二〇〇、六〇
(日 額)	六七、九七	六七、八六	六七、七〇	六七、六〇	六七、四六	六七、三二	六七、一八
收容人員	一一六一人以上	一一七一人以上	一一八一人以上	一一九一人以上	一二〇一人以上	一二一人以上	一二二人以上
月 額	二一二、九〇	二一二、六〇	二一二、二〇	二一一、八〇	二一一、四〇	二一一、〇〇	二一〇、六〇
(日 額)	七〇、九七	七〇、八六	七〇、七〇	七〇、六〇	七〇、四六	七〇、三二	七〇、一八
收容人員	一二三人以上	一二四一人以上	一二五一人以上	一二六一人以上	一二七一人以上	一二八一人以上	一二九一人以上
月 額	二二二、九〇	二二二、六〇	二二二、二〇	二二一、八〇	二二一、四〇	二二一、〇〇	二二〇、六〇
(日 額)	七四、九七	七四、八六	七四、七〇	七四、六〇	七四、四六	七四、三二	七四、一八
收容人員	一二九一人以上	一二〇一人以上	一二一人以上	一二二人以上	一二三人以上	一二四一人以上	一二五一人以上
月 額	二三二、九〇	二三二、六〇	二三二、二〇	二三一、八〇	二三一、四〇	二三一、〇〇	二三〇、六〇
(日 額)	七七、九七	七七、八六	七七、七〇	七七、六〇	七七、四六	七七、三二	七七、一八
收容人員	一三七一人以上	一三八一人以上	一三九一人以上	一四〇一人以上	一四一人以上	一四二人以上	一四三人以上
月 額	二四二、九〇	二四二、六〇	二四二、二〇	二四一、八〇	二四一、四〇	二四一、〇〇	二四〇、六〇
(日 額)	八〇、九七	八〇、八六	八〇、七〇	八〇、六〇	八〇、四六	八〇、三二	八〇、一八
收容人員	一四四一人以上	一四五一人以上	一四六一人以上	一四七一人以上	一四八一人以上	一四九一人以上	一五〇一人以上
月 額	二五二、九〇	二五二、六〇	二五二、二〇	二五一、八〇	二五一、四〇	二五一、〇〇	二五〇、六〇
(日 額)	八四、九七	八四、八六	八四、七〇	八四、六〇	八四、四六	八四、三二	八四、一八
收容人員	一五一人以上	一五二人以上	一五三人以上	一五四人以上	一五五人以上	一五六一人以上	一五七一人以上
月 額	二六二、九〇	二六二、六〇	二六二、二〇	二六一、八〇	二六一、四〇	二六一、〇〇	二六〇、六〇
(日 額)	八七、九七	八七、八六	八七、七〇	八七、六〇	八七、四六	八七、三二	八七、一八
收容人員	一五八一人以上	一五九一人以上	一六〇一人以上	一六一一人以上	一六二人以上	一六三人以上	一六四一人以上
月 額	二七二、九〇	二七二、六〇	二七二、二〇	二七一、八〇	二七一、四〇	二七一、〇〇	二七〇、六〇
(日 額)	九〇、九七	九〇、八六	九〇、七〇	九〇、六〇	九〇、四六	九〇、三二	九〇、一八
收容人員	一六五一人以上	一六六一人以上	一六七一人以上	一六八一人以上	一六九一人以上	一七〇一人以上	一七一一人以上
月 額	二八二、九〇	二八二、六〇	二八二、二〇	二八一、八〇	二八一、四〇	二八一、〇〇	二八〇、六〇
(日 額)	九四、九七	九四、八六	九四、七〇	九四、六〇	九四、四六	九四、三二	九四、一八
收容人員	一七二人以上	一七三人以上	一七四一人以上	一七五一人以上	一七六一人以上	一七七一人以上	一七八一人以上
月 額	二九二、九〇	二九二、六〇	二九二、二〇	二九一、八〇	二九一、四〇	二九一、〇〇	二九〇、六〇
(日 額)	九七、九七	九七、八六	九七、七〇	九七、六〇	九七、四六	九七、三二	九七、一八
收容人員	一七九一人以上	一八〇一人以上	一八一人以上	一八二人以上	一八三人以上	一八四一人以上	一八五一人以上
月 額	三〇二、九〇	三〇二、六〇	三〇二、二〇	三〇一、八〇	三〇一、四〇	三〇一、〇〇	三〇〇、六〇
(日 額)	一〇〇、九七	一〇〇、八六	一〇〇、七〇	一〇〇、六〇	一〇〇、四六	一〇〇、三二	一〇〇、一八
收容人員	一八六一人以上	一八七一人以上	一八八一人以上	一八九一人以上	一九〇一人以上	一九一人以上	一九二人以上
月 額	三一二、九〇	三一二、六〇	三一二、二〇	三一、八〇	三一、四〇	三一、〇〇	三〇、六〇
(日 額)	一〇四、九七	一〇四、八六	一〇四、七〇	一〇四、六〇	一〇四、四六	一〇四、三二	一〇四、一八
收容人員	一九三人以上	一九四一人以上	一九五一人以上	一九六一人以上	一九七一人以上	一九八一人以上	一九九一人以上
月 額	三二二、九〇	三二二、六〇	三二二、二〇	三二一、八〇	三二一、四〇	三二一、〇〇	三二〇、六〇
(日 額)	一〇七、九七	一〇七、八六	一〇七、七〇	一〇七、六〇	一〇七、四六	一〇七、三二	一〇七、一八
收容人員	二〇〇一人以上	二〇一人以上	二〇二人以上	二〇三人以上	二〇四一人以上	二〇五一人以上	二〇六一人以上
月 額	三三二、九〇	三三二、六〇	三三二、二〇	三三一、八〇	三三一、四〇	三三一、〇〇	三三〇、六〇
(日 額)	一一〇、九七	一一〇、八六	一一〇、七〇	一一〇、六〇	一一〇、四六	一一〇、三二	一一〇、一八
收容人員	二〇七一人以上	二〇八一人以上	二〇九一人以上	二一〇一人以上	二一一一人以上	二一二一人以上	二一三人以上
月 額	三四二、九〇	三四二、六〇	三四二、二〇	三四一、八〇	三四一、四〇	三四一、〇〇	三四〇、六〇
(日 額)	一一四、九七	一一四、八六	一一四、七〇	一一四、六〇	一一四、四六	一一四、三二	一一四、一八
收容人員	二一四一人以上	二一五一人以上	二一六一人以上	二一七一人以上	二一八一人以上	二一九一人以上	二二〇一人以上
月 額	三五二、九〇	三五二、六〇	三五二、二〇	三五一、八〇	三五一、四〇	三五一、〇〇	三五〇、六〇
(日 額)	一一七、九七	一一七、八六	一一七、七〇	一一七、六〇	一一七、四六	一一七、三二	一一七、一八
收容人員	二二一人以上	二二二人以上	二二三一人以上	二二四一人以上	二二五一人以上	二二六一人以上	二二七一人以上
月 額	三六二、九〇	三六二、六〇	三六二、二〇	三六一、八〇	三六一、四〇	三六一、〇〇	三六〇、六〇
(日 額)	一二〇、九七	一二〇、八六	一二〇、七〇	一二〇、六〇	一二〇、四六	一二〇、三二	一二〇、一八
收容人員	二二八一人以上	二二九一人以上	二三〇一人以上	二三一人以上	二三二人以上	二三三人以上	二三四一人以上
月 額	三七二、九〇	三七二、六〇	三七二、二〇	三七一、八〇	三七一、四〇	三七一、〇〇	三七〇、六〇
(日 額)	一二四、九七	一二四、八六	一二四、七〇	一二四、六〇	一二四、四六	一二四、三二	一二四、一八
收容人員	二三五一人以上	二三六一人以上	二三七一人以上	二三八一人以上	二三九一人以上	二四〇一人以上	二四一人以上
月 額	三八二、九〇	三八二、六〇	三八二、二〇	三八一、八〇	三八一、四〇	三八一、〇〇	三八〇、六〇
(日 額)	一二七、九七	一二七、八六	一二七、七〇	一二七、六〇	一二七、四六	一二七、三二	一二七、一八
收容人員	二四二人以上	二四三人以上	二四四一人以上	二四五一人以上	二四六一人以上	二四七一人以上	二四八一人以上
月 額	三九二、九〇	三九二、六〇	三九二、二〇	三九一、八〇	三九一、四〇	三九一、〇〇	三九〇、六〇
(日 額)	一三〇、九七	一三〇、八六	一三〇、七〇	一三〇、六〇	一三〇、四六	一三〇、三二	一三〇、一八
收容人員	二四九一人以上	二五〇一人以上	二五一一人以上	二五二人以上	二五三人以上	二五四一人以上	二五五一人以上
月 額	四〇二、九〇	四〇二、六〇	四〇二、二〇	四〇一、八〇	四〇一、四〇	四〇一、〇〇	四〇〇、六〇
(日 額)	一三三、九七	一三三、八六	一三三、七〇	一三三、六〇	一三三、四六	一三三、三二	一三三、一八
收容人員	二五六一人以上	二五七一人以上	二五八一人以上	二五九一人以上	二六〇一人以上	二六一一人以上	二六二人以上
月 額	四一二、九〇	四一二、六〇	四一二、二〇	四一一、八〇	四一一、四〇	四一一、〇〇	四一〇、六〇
(日 額)	一三七、九七	一三七、八六	一三七、七〇	一三七、六〇	一三七、四六	一三七、三二	一三七、一八
收容人員	二六三人以上	二六四一人以上	二六五一人以上	二六六一人以上	二六七一人以上	二六八一人以上	二六九一人以上
月 額	四二二、九〇	四二二、六〇	四二二、二〇	四二一、八〇	四二一、四〇	四二一、〇〇	四二〇、六〇
(日 額)	一四〇、九七	一四〇、八六	一四〇、七〇	一四〇、六〇	一四〇、四六	一四〇、三二	一四〇、一八
收容人員	二七〇一人以上	二七一一人以上	二七二人以上	二七三人以上	二七四一人以上	二七五一人以上	二七六一人以上
月 額	四三二、九〇	四三二、六〇	四三二、二〇	四三一、八〇	四三一、四〇	四三一、〇〇	四三〇、六〇
(日 額)	一四四、九七	一四四、八六	一四四、七〇	一四四、六〇	一四四、四六	一四四、三二	一四四、一八
收容人員	二七七一人以上	二七八一人以上	二七九一人以上	二八〇一人以上	二八一一人以上	二八二人以上	二八三人以上
月 額	四四二、九〇	四四二、六〇	四四二、二〇	四四一、八〇	四四一、四〇	四四一、〇〇	四四〇、六〇
(日 額)	一四七、九七	一四七、八六	一四七、七〇	一四七、六〇	一四七、四六	一四七、三二	一四七、一八
收容人員	二八四一人以上	二八五一人以上	二八六一人以上	二八七一人以上	二八八一人以上	二八九一人以上	二九〇一人以上
月 額	四五二、九〇	四五二、六〇	四五二、二〇	四五一、八〇	四五一、四〇	四五一、〇〇	四五〇、六〇
(日 額)	一五〇、九七	一五〇、八六	一五〇、七〇	一五〇、六〇	一五〇、四六	一五〇、三二	一五〇、一八
收容人員	二九一人以上	二九二人以上	二九三人以上	二九四一人以上	二九五一人以上	二九六一人以上	二九七一人以上
月 額	四六二、九〇	四六二、六〇	四六二、二〇	四六一、八〇	四六一、四〇	四六一、〇〇	四六〇、六〇
(日 額)	一五三、九七	一五三、八六	一五三、七〇	一五三、六〇	一五三、四六	一五三、三二	一五三、一八
收容人員	二九八一人以上	二九九一人以上	三〇〇一人以上	三〇一人以上	三〇二人以上	三〇三人以上	三〇四一人以上
月 額	四七二、九〇	四七二、六〇	四七二、二〇	四七一、八〇	四七一、四〇	四七一、〇〇	四七〇、六〇
(日 額)	一五七、九七	一五七、八六	一五七、七〇	一五七、六〇	一五七、四六	一五七、三二	一五七、一八
收容人員	三〇五一人以上	三〇六一人以上	三〇七一人以上	三〇八一人以上	三〇九一人以上	三一〇一人以上	三一一人以上
月 額	四八二、九〇	四八二、六〇	四八二、二〇	四八一、八〇	四八一、四〇	四八一、〇〇	四八〇、六〇
(日 額)	一六〇、九七	一六〇、八六	一六〇、七〇	一六〇、六〇	一六〇、四六	一六〇、三二	一六〇、一八
收容人員	三一二人以上	三一三人以上	三一四一人以上	三一五一人以上	三一六一人以上	三一七一人以上	三一八一人以上
月 額	四九二、九〇	四九二、六〇	四九二、二〇	四九一、八〇	四九一、四〇	四九一、〇〇	四九〇、六〇
(日 額)	一六四、九七	一六四、八六	一六四、七〇</				

收容人員	三九一人以上 四〇〇人まで	四〇一人以上 四一〇人まで	四二一人以上 四三〇人まで
月 額	二九八、五〇	二九五、八〇	二九三、四〇
(日 額)	九、九五	九、八六	九、七八

二、事業費の限度

事業費とは、入所児童の保護のために直接必要な費用をいうものであり児童の賄費、其の他の事業費（炊具、食器、燃料、光熱、被服及寢具、日用品、齒磨粉、チリ紙等、教養費、保健衛生費等）及び給食費であつて事務費をもつて支辨すべきもの以外の總てをいふこの費用の限度一人一日當り左表のとおりである。

事業費の限度に關する一覽表

(保育所に關するもののみを掲げ他施設は略す)

施設種類	賄費	其の他の事業費	給食費	計
保育所	一	二五六	乳兒二五、〇〇〇 幼兒四、〇〇〇	乳兒二七、五六 幼兒六、五六
三—四	略す			

五、一及び二にかゝげた費用の限度内において、各都道府縣はその所管の個々の施設について夫々具體的實情に應じ限度を設定し公に知らせる方法をとること、例えば、養護施設、〇〇學園、〇〇園〇〇錢の如く)

六、各都道府縣は前項による限度を設定したときはその都度速かに當省へ報告すること。(以上——厚生省児童局)

國立幼稚園教員の採用について

四二一人以上 四三〇人まで	四三一人以上 四四〇人まで	四四一人以上 四五〇人まで
二九二、〇〇	二八八、六〇	二八五、九〇
九、七〇	九、六二	九、五三

このたび教育公務員採用志願者名簿規則（昭和二十四年十一月二十一日文部省令第四十一號）が公布され、國立の高等學校、中學校、小學校、幼稚園、盲學校、ろう學校の校長又は教員の採用は、教育公務員採用志願者名簿に記載された者の中から選考の上採用することになった。これによると國立幼稚園教員を志望する者は左記要領によつて文部省の人事主任官（文部大臣官房人事課長）に提出することになった、

記

- 一、出願の時期 何時でもよい
- 二、出願の際提出する書類
 - 1 採用志願書
 - 2 履歴書
 - 3 教職員適格確認書寫又は判定書寫
 - 4 身體検査書
 - 5 教育職員の免許狀授與證明書
 - 6 最終卒業又は修了學校の成績證明者
- 三、出願の資格

1 教育職員の免許狀を有している者
2 現在在學しているが、學校の卒業又は修了によつて教育職員の免許狀の授與を受ける資格を得る者で卒業又は修了前三ヶ月以内の者
(一七頁へつゞく)

○いよく春になりました。いろ／＼とお忙しい時でもある

○波根氏の論文は、子どもをいかに育てるかに就て、極めて有益なる教示をあたえられます。本號は實際論として、次號に引きつづきます。理論的な面に進んで下さる筈です。御精讀下さい。

○平井氏の戸外保育論は、日光の禮讃とともに、その保健上の効果を、説明していただいたのです。日光の利益は、たゞ利用するといふばかりでなく、ありがたいという心持ちをもちたいものです。勿論子供は、「ありがたいい」というよりは、「たのしい」「うれしい」でよいのですが、つまりは、ありがたいという心持ちにほかなりませんね。

○内山氏の年中行事論は、保育要領にもある年中行事の意義と尊重を説かれたもので、四季をそれ／＼の年中行事を、子どもの生活の色合ともし、うるをいともし、時に又、カリキエラムの「主観」ともせましよう。

○上澤氏のおはなし論は、おはなしの研究者として又實際家としての、氏の平生のうんちくと、苦心との一端をもらされたものとしてよく、味讀したいものです。

前號に御披露しました質疑應答は、御遠慮なく、どしくお寄せ下さい。

×

×

×

	x
x	
	x
x	.
	x
x	

編集主任	倉橋惣三
協力委員	牛島義友

倉橋惣三 牛島義友 及川ふみ 齊藤文雄 多田鐵雄 波多野完治 山下俊郎

(五十音順)

編集委員
西山浪太郎

日本幼稚園協會

定價 金參拾圓

昭和二十五年三月十五日印刷
昭和二十五年三月二十日發行

東京都中野區千光前町一〇

編纂兼
發行者
倉橋惣三

東京都文京區柳町二一番地

印刷者 杉山龜吉

東京都文京區柳町二番地

印刷所 第一印刷株式會社

東京都文京區大塚町三十五

東京女子高等師範學校附屬幼稚園內

發行所
日本幼稚園協會

東京都千代田區神田神保町二ノ四

發賣所
株式會社
フレール館

電話九段(33)三九七一番
振替東京一九六四〇番

○本誌御購讀について注文申込その他は
凡べて發賣所フレール館宛に願います

山下俊郎先生監修

保育叢書

全 23 卷

全日本の保育者、お母様方に贈る

新しい文化國日本の建設は私共の次の時代をになつてくれるいまの幼児達によつて始めてなしとげられます。日頃幼ない子供達に接している保育者の責務は誠に重いと言わなければなりません。新しい學校教育法が公布され、文部省によつて保育要領が刊行される一方、児童福祉法が制定實施されて保育所の保育の仕事も一層重きを加えて参りました。この大きな輪廓に従つて保育者は一層保育の内容に就いての研究を積みなければなりません

新時代の保育者へ	坂元彦太郎	論山下俊郎	定價二〇〇圓
保育學概論	山下俊郎	史古木弘造	定價二〇〇圓
幼兒心理的發達	山下俊郎	育齋藤文雄	定價二〇〇圓
健康保育	竹田俊雄	兩親教育	學村山貞雄
環境教育	功刀よし子	論功刀よし子	定價一八〇圓
保育プログラム	功刀よし子	導山下俊郎	定價二〇〇圓
幼兒の生活指導	栗山重	育飛田多喜雄	定價二〇〇圓
幼兒の科學教育	飛田多喜雄	定價二〇〇圓	
幼兒の言語教育	飛田多喜雄	定價二〇〇圓	
農村幼兒保育	根岸草苗	定價二〇〇圓	
農村幼兒保育	根岸草苗	定價二〇〇圓	
幼兒の音樂教育	酒田富治	定價二〇〇圓	
幼兒のお話教育	上澤謙二	定價二〇〇圓	
幼兒の紙芝居と人形芝居	松葉重庸	定價一七〇圓	
幼兒の繪畫と製作	副島ハマ	定價二二〇圓	
幼兒の遊びの指導	大崎サチエ	定價二二〇圓	
幼兒のリズム	竹内菊枝	定價一八〇圓	
幼兒の人形芝居脚本集	福岡敏子	定價一八〇圓	
幼兒の談話教育	松葉重庸	定價二〇〇圓	
幼兒の談話教育	上澤謙二	定價二〇〇圓	

(太字既刊・送料各二〇圓)

東京都神田
神保町二

嚴松堂出版株式會社

振替東京
6 5 5 6

観 察 繪 本

キンダーブック

KINDER-BOOK

キンダーブックのフレーベル、フレーベルのキンダーブック——この繪本は餘りにも有名です。發刊以來既に通卷 250 號を發行し、全國の各幼稚園保育所をはじめ、健全な家庭から、學齡前の幼兒に無條件に與へられる代表的な繪本として積々の好評を載いてをります。先頃連合軍總司令部 C I E より發表ありましたものゝ中にも、アメリカにおいても類誌のない獨自のものであるとの御言葉がありました。企畫、編集、用紙、着色、製本凡ゆる面に不斷の精進をつづけ、號は號を追つて益々良いものを世に送りたいと努力してをります。次代の日本を背負う愛兒のためのこよなき心の糧であります。

A 4 判・16 頁・月 1 回發行・定價 40 圓・送料 3 圓

新しい社會科繪本發行！
キンダーブック特集號！
汽車繪本の決定版！

たのしい汽車

B 5 判・三二頁（五色刷背クロース） 付）テ二二圓
解 說

全國の先生方、お母様方の要望に答えて一
流の作家、畫家と編集者が眞心をこめて三
十萬の愛讀者の子供達に贈る社會科繪本の
第一集です。
先生もお母様も子供時代に戻つてお子様達
と一緒に「楽しい汽車」のつて旅をして
下さい。夢と情操と汽車の知識をかねそな
えた幼稚園、保育所、小學校低學年向けの汽
車繪本の絶対他誌に負けない自信をもつ
ておすめできるものではないですか、何卒キン
ダーブック同様の御愛讀を願います。

童 謠 西條 八十 近藤 東
繪 吉澤 廉三郎 安井 小彌太
武井 武雄 木俣 武

黒崎 義介 上田 三郎
澤井 一三郎 松井 行正

（三月下旬發行）

發 行 所

東京都千代田區神田
神保町二丁目四番地

株式會社

フレーベル館

振替口座東京
一九六四〇番